予算特別委員会 教育民生分科会 記録

開会年月日	令和6年3月5日
開議時刻	午前 9時57分
閉会時刻	午後 3時04分
出席委員名	◎宮崎 誠 ○楠木宏彦 大西要一 中村 功
	井村貴志 野崎隆太 吉井詩子 吉岡勝裕
	藤原 清史 議長
欠席委員名	なし
署名者	大西 要一 中村 功
担当書記	野村格也
審査案件	議案第2号 令和6年度伊勢市一般会計予算（教育民生分科会関係分）
	議案第3号 令和6年度伊勢市国民健康保険特別会計予算
	議案第4号 令和6年度伊勢市後期高齢者医療特別会計予算
	議案第5号 令和6年度伊勢市介護保険特別会計予算
	議案第8号 令和6年度伊勢市病院事業会計予算
説明員	市長 副市長 ほか関係参与

審査経過

宮崎会長が開議を宣告し、会議成立宣言の後、直ちに会議に入り、「議案第2号 令和6年度伊勢市一般会計予算」中、教育民生分科会関係分、外4件を議題とし、款11教育費から審査を再開し、付託案件の全ての審査を終わり、会長報告文については正副会長に一任することで決定し、閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開議 午前9時57分

◎宮崎誠会長

ただいまから予算特別委員会教育民生分科会の継続会議を開きます。

出席者は全員でありますので、会議は成立いたしております。

会議録署名者は当初決定のとおりです。

それでは、前回に引き続き、款11教育費から審査を行います。

予算書の120ページをお開きください。

教育費については、項1教育総務費、項5社会教育費及び項6保健体育費は目単位で、項2小学校費、項3中学校費及び項4幼稚園費は項単位での審査をお願いします。

それでは、項1教育総務費、目1教育委員会費について御審査願います。

【款11教育費】《項1教育総務費》（目1教育委員会費） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、目1教育委員会費の審査を終わります。

次に、目2事務局費について御審査願います。

（目2事務局費）

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

おはようございます。ちょっともうこれ教育というか、この予算書の教育費の全体のところに関わる話なので、もうここで聞かせてもらえればと思います。今年度10月ぐらいに教育フェローが新しく任命をされたかと思っております。その中で、教育フェローに、今、数か月、半年ぐらいでいろんな御指導をいただいたかと思うんですけども、その中でどんな効果があったのかと、この令和6年度の予算書の作成に当たって、このフェローの方にどんな影響を受けたというか、与えていただいたというのが正しいかな、みたいな話をもし端的に結構ですので、あれば教えていただければなと思います。

◎宮崎誠会長

教育研究所副参事。

●村井教育研究所副参事

フェローにつきましては、先ほどもありましたように、令和5年10月31日に就任をしていただきましたので、令和6年度予算については、予算要求の締切り時期の関係もありまして、見ていただいておりますが、研究所の事業につきましては、予算要求後にはなりましたが、いろんな助言を受けて取り組んでおります。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

ありがとうございます。今、教育研究所の方から御答弁をいただいたんですけども、恐らく今の話からすると、今のところ、教育フェローさんは教育研究所を中心に関わっていただいておりますというふうな理解でよろしいでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育研究所副参事。

●村井教育研究所副参事

フェローの専門分野が学校教育で、特にGIGAスクール構想なんかにたけた方ですので、まずは学校教育、特に教育研究所のほうを中心に今取組をさせていただいております。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

僕は、ちょっと伊勢市の広報のちょっとだけ上手じゃない部分かなと思うんですけども、結構今の教育フェローの方も、もう一人の陣内さんにしても優秀な方だと僕は思っております。いろんなリリースの中で、こういった予算書とかつくる時に、こんなふうに関わってもらっていますであるとか、それは当然教育長としても、市長の成果としても、そういったことをもうちょっと強く発信したりとかいうふうにしていくのが僕はいかなというふうにも思っております。

その上でですけども、教育のデジタル化という中で、今GIGAスクール構想の話をしていただきましたけれども、市民の側から受けるといったときに、全体、例えば学校の中で施設内も含めてどういうふうにデジタル化が進んでいくんだろうというふうな期待をして、ある意味、GIGAスクールの一部はソフトじゃなくてハードに近いようなところ、学校の中で例えばどんなふうにWi-Fiが使えるのであるとか、そういうふうな期待をしとるような市民も僕は多いかなというふうな思うんですけども、そういう中で教育

委員会全体、学校に限らずいろんな分野で当然契約であるとか、フェローとどういうふうな約束の取決めをしているかというのは当然あるので、あまりにも外れたことはできないにしても、この予算書を1回送って見てもらうとかそういった作業も含めて、全体で御指導いただくような形を取ってみてはどうかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育総務課長。

●前村教育総務課長

今おっしゃっていただきましたように、今のところは学校教育の分野からまずは始めておりますけれども、教育のDXということで、私ども社会教育の分野というのも当然教育の中には入ってきますので、来年以降の事業立案ですとか予算書の要求に向けましては、そのあたりも教育委員会全体としてフェローの方に御意見や御助言をいただきながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、目2事務局費の審査を終わります。

次に、目3教育振興費について御審査願います。教育振興費は、120ページから123ページです。

（目3教育振興費）

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

井村委員。

○井村貴志委員

おはようございます。どうぞよろしく願いいたします。小事業の9番の部活動指導員配置事業というところで、ちょっと御質問させていただきたいと思っております。この部活動指導員の配置事業のまず内容をお知らせ願いたいと思っております。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●東端学校教育課副参事

部活動で指導が必要な中学校に対して、地域の指導者を派遣する事業でございます。

◎宮崎誠会長
井村委員。

○井村貴志委員
そうしますと、具体的な事例というのは、例えば例を挙げて説明願えませんか。

◎宮崎誠会長
学校教育課副参事。

●東端学校教育課副参事
現在8名の部活動指導員を配置しておりまして、部活の種類としましては、バレーボール、バスケットボール、あと軟式野球、ソフトテニス、陸上競技、あと合唱、太鼓で指導をしていただいております。

◎宮崎誠会長
井村委員。

○井村貴志委員
その目的という部分について、ちょっとお聞かせください。

◎宮崎誠会長
学校教育課副参事。

●東端学校教育課副参事
目的につきましては、中学校における部活動体制の充実、あと子供たちが満足して学校生活を送れるように、部活動の質的な向上を図ることを目的としてやっております。以上です。

◎宮崎誠会長
井村委員。

○井村貴志委員
そうしますと、今後中学校の部活動というのは地域のほうへ任すというような方向でよろしいんですか。

◎宮崎誠会長
学校教育課副参事。

●東端学校教育課副参事
地域のほうへ任すというか、部活動指導員を活用することで地域連携を図っていく、ま

たクラブチーム等に部活動をお任せすることで地域連携、両方を進めていこうと思っております。

◎宮崎誠会長
井村委員。

○井村貴志委員

分かりました。地域と連携してということでございますので、子供さんの数も少なくなつとる中で、地域と連携してやっていく方向だろうというふうに思いますので、ぜひ地域で盛り上げていていただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。
吉井委員。

○吉井詩子委員

私は、中事業3の学校生活支援事業についてお聞きをいたしたいと思います。この説明書には、授業のユニバーサルデザイン化というふうには書いてあるんですが、具体的にどのようなものでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

授業のユニバーサルデザイン化とは、配慮の必要な児童生徒にとってなくてはならない支援であり、全ての児童生徒にとってあると便利な支援のことです。学校生活や学習活動の中で、ユニバーサルデザインの視点で環境整備や授業づくりを見直すことで、全ての児童生徒にとっての分かる、できるを保障する授業づくりを行うことを目指すものでございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

環境整備をしていただくということで、学習支援員さんを増やしていただくということもそうだと思うんですが、例えばハード面とかでも何か事例というかありましたら、具体的に教えていただきたいんですが。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

学習支援員さんで配慮の必要な児童生徒の支援を行っていただいております。また、このユニバーサルデザイン化のほうで講師等を招聘して、どうしたらみんなに分かる、できるを実感する授業ができるということを、各校で研究をしていただいております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。それから、巡回相談員を派遣するという事なんですが、この巡回相談員とはどのような立場の方がいらっしゃるんですか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

巡回相談員とは、特別支援学校のかば学園、度会特別支援学校の相談員の方に来ていただいて、支援の方法であるとかを御指導いただく、御助言いただくようなことになっております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

そのように専門的な方に御助言いただいているということで理解いたしました。

それでは、続きまして、中事業5の学力向上推進事業についてお聞きをいたしたいと思っております。今回新しく読解力向上プロジェクトというものに取り組みられるということで、このよむYOMUワークシート、これは具体的にどんなものでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課長。

●亀山学校教育課長

読売新聞が発行しますよむYOMUシートというものを活用しまして、読解力の向上を目指すものでございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

ちょっと今の御答弁では読売新聞しか分からなかったんですけども、どんなんでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課長。

●亀山学校教育課長

新聞の記事を利用しまして、その記事を利用して、ワークシートになっておるものに記入したり、それを解いていくようなものでございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

このワークシートというものは紙ベースでしょうか、デジタルでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課長。

●亀山学校教育課長

紙ベースでもデジタルでも両方ございます。以上です。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。紙ベースも選ぶことができるということで、最近ちょっと気になるのは、デジタルのほうを進めていくと、漢字を私は書けなくだんだん増えてきたので、紙のほうも、それもまた利用していただきたいなと思います。

それから、三重県内でこの取組に対して先行している自治体もあると思うんですが、その成果についてどのように聞かれていますか。

◎宮崎誠会長

学校教育課長。

●亀山学校教育課長

このシートを採用するに当たりまして、他市町の様子も聞かさせていただきました。ここでは、やはり国語の読解力のほうが向上したというふうな成果を伺っております。以上です。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

国語の読解力というのは、本当に全ての学力の基本となると思いますので、この新しい取組をしっかりと、何か楽しそうですし、進めていただきたいと思います。そして、このことも含めまして、この説明書とか読んでみますと、とても学力を進めるために、向上を進めるためにデジタル化というものが進んでいるということが分かります。第3期伊勢市教育振興基本計画には、子供たちがICTを適切・安全に使いこなすことができるよう、情報リテラシーや情報モラル等の活用能力の育成を進めますとあります。この情報活用能力ということも、このよむYOMUワークのほうで学力向上できると思うんですが、この文部科学省のポータルサイトなどを見ても、かなり重要視されていますので、ほかの取組でもこの情報活用能力とかそういうことに関してどのように進めていけますか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

様々な教科においてICT機器や、また図書などを活用する調べ学習などで能力の育成を図っております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

調べ学習をしていくということでお聞きをいたしました。でも、基本となるのは、やはり読解力というものは、ICTであろうと、紙のほうであろうと一緒に思うんですが、また、一方、モラルということについても、今回の予算書ではあまりどこでやるのかというのがちょっと見えてこないんですが、現実には様々子供たちの状況の中ではゲーム依存であったりとか、またもうちょっと大きくなってから本当に簡単に闇バイトとかそういうことに簡単に手を出したりとか、様々危険にさらされている状況にあるので、このSNSの使い方については、ちょっとどこの事業で聞いていいか分からなかったのであれなんですけれども、そういうことを教えるのはどこで教えるんでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

文部科学省のほうでは、情報モラルも情報活用能力の一部であると捉えていると書かれ

ております。情報モラルにつきましては、教育研究所のほうで出前授業等も毎年多くの学校で行っていただいております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

様々消費者教育であったりとか、性教育であったりとか、様々なことを出前講座でやっていただくということで、その出前講座で全部やっていけるのかなということがちょっと疑問に思うこともあるんですが、その辺いかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

基本は、いろんな様々な教科で教科書を基に情報モラルであっても、性教育であっても指導のほうはしておりますが、より有効的・活用的に子供たちに身につくようにということで出前授業のほうも取り入れているということで、それが全てではないので、有効的に活用していきたいと考えております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

今、有効的とおっしゃいましたので、出前講座、本当に充実していただきたいと思います。また、保護者の方にも、本当にこのことに関しては不安に思ってみえる方もあると思いますので、またその辺のほうもよろしく願いいたします。以上です。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

それでは、この教育振興事業のところでお尋ねをさせていただきたいと思います。令和5年度の予算のときには、この教育振興事業が14本の事業が記載ありました。そのときには、未来へチャレンジ！職場体験推進事業とか、豊かな心育む体験交流活動推進事業とかいろいろもう少し細かくあったわけですが、今回そういった事業がなくなっております。その辺のどれがどういった事業になっていったのか、なくなったのか、その辺も教えていただけたらと思います。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●西山学校教育課副参事

14の事業が10事業になった理由としましては、まず事業の再編を行いまして、14事業から10事業といたしました。再編を行いましたのは、予算書の（１）、（２）、（３）、（７）の４事業でございます。まず、（１）の児童生徒教育活動支援事業は、学校行事開催事業、未来へチャレンジ！職場体験推進事業、豊かな心を育む体験交流活動推進事業の３事業を統合しまして、事業名を児童生徒教育活動支援事業といたしました。次に、（２）の学校教育支援事業には、修学旅行等引率事業と、教職員研修経費を編入いたしました。続きまして、（３）の学校生活支援事業は、特別支援教育推進事業に学校教育支援事業のうちから学習支援員及び医療的ケアに係る看護師の経費を編入し、事業名を学校生活支援事業といたしました。最後に、（７）の体育・文化活動支援事業は、文化活動県外大会参加負担金、小学校体育活動事業、中学校体育活動事業の３事業を統合し、事業名を体育・文化活動支援事業といたしまして、10事業といたしました。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

ありがとうございます。いろいろと統合・整理をされたということでありますけれども、もう少し理由だけ何かあれば教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●西山学校教育課副参事

事業の再編理由でございますが、まず、児童生徒教育活動支援事業につきましては、いずれも児童生徒に必要な教育活動を支援するという視点で、児童生徒にかかる事業費という形で事業費のほうを統合させていただきました。学校教育支援事業のほうは、いずれも学校教育の運営に必要な職員等の活動を支援するというものでございまして、職員にかかる事業費という視点で統合させていただきました。学校生活支援事業に関しましては、障がいのある児童や配慮が必要な児童生徒への学習支援や介助など、児童生徒の学校生活の支援にかかる経費という視点で事業を再編し、事業名の変更のほうをさせていただきました。体育・文化活動支援事業につきましては、いずれも子供たちが全国大会に出場するために必要な経費を支援するというものでございますことから、児童生徒の大会出場の支援にかかるという経費ということで事業の統合をいたしました。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

詳しく説明いただきまして、ありがとうございました。また、そのような形で理解をしていきたいというふうに思います。

続いて、この(3)と(10)について、もう少しお聞かせをいただきたいと思います。先ほど御説明いただいた学校生活支援事業ですけれども、概要書のほうには71ページ、詳しく記載をしていただいております。特に、その中で学習支援員さんのことでお尋ねをしたいと思います。いろいろと支援が必要な子供たちのために65人から89人に増員をしていただくということで、17ページのほうの重点施策のほうの説明欄のほうには記載をしていただいております。大変その点については評価をしたいと思いますし、これまでも支援の必要な子供たちが増えてきているということで、こういった対応になってきたかと思います。その辺まずどのような形の児童生徒を支援していくのか、お聞かせをいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

発達障がいを含む支援が必要な児童生徒の支援を学習支援さんにしていただきます。命に関わることであるとか、障がいの種別はどうかとか、特別支援学級に種別が複数にわたっているか等、生活介助が必要なのかの優先順位をつけて、限られた配置数で優先順位の高いところから配置をしております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。その支援員さんの今回89人の方になっていただくわけですけれども、そういった資格とか教員免許が要るかどうかとか、その辺資格については何か考えていることがあれば教えてください。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

学習支援員につきましては、教員免許等の有無は問いません。児童生徒の支援や教育に情熱を持っている方をお願いをさせていただいております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。免許等は特にはないということでありますけれども、いろいろと子供たちに面接等をさせていただく中で、やはり発達の障がいの特性であったりとか、中には特別な配慮、また工夫が必要な子とか、そういった形の子供たちも結構あるかと思えます。そういった支援員さんは、確かに情熱で対応していただく形が確かにそれが一番だと思うんですけども、あまり情熱が過ぎて厳し過ぎて、その子にとってはちょっと支援員さん、私にとってはという場合もあるかと思えます。そういった部分も含めて研修なんかもしっかりと必要かと思えますけれども、その辺もう一度お答えいただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

まず、4月の頭のほうで学校が始まる前にオリエンテーションのほうを行わせていただいております。全ての学習支援員さんに参加いただいております。また、8月には教育研究所の講座と併せて研修のほうも受けていただいております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。その子供たちにとって特に喜んでもらえるというか一緒に勉強していく中で、学校生活の中で支援員さんとても好きやわというような支援員さんになっていただけるような形で進めていただけたらというふうに思います。

次、10番目の学校水泳民間プール施設活用事業についてお尋ねをします。令和5年の予算では999万円ということで、今回予算では1,495万円、約500万円ほど増額となっております。対象校が増えるかなというふうには思いますけれども、令和6年度の計画教えてください。

◎宮崎誠会長

学校教育課長。

●亀山学校教育課長

令和5年度の6校に加えまして、新たに4校を追加の計画を立てております。以上です。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。新たに4校ということで、4校、これは特にまた公募という形になりませんか。

◎宮崎誠会長

学校教育課長。

●亀山学校教育課長

実施予定校は、4月に公募となっております。以上です。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。ありがとうございます。なかなかもう一度この学校プールをもう使わなくなっていて、こういった形で民間プールを活用させていただくようになってくると、もう一度また元へ戻るといのはなかなか難しいのかなとは思いますが。それは維持費の関係であったり、いろいろとプール授業の関係であったりということでこういった判断をいただいているんだと思いますけれども、今回この4校を増やしていくということで、学校プールの維持費等削減となれば、その辺どれぐらいになってくるのか教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課長。

●亀山学校教育課長

新たに4校が自校でプールを実施した場合の維持費ですけれども、消毒とかの薬剤、ろ過機であるとかポンプですとかのメンテナンス、それと水道代及びプールの経年劣化による改修費等、合計1,296万円の見積りを立てております。これを4校の児童生徒数分で民間のほうに委託をした場合に支払う代金は合計723万円となり、差額573万円の削減となります。以上です。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。そちらのほうが経費的にもメリットがあるということで理解させていただきます。民間プールを活用していただいて、インストラクター等にしっかり教えていただくということも大事だと思いますし、また伊勢の場合は中学校でプールの授業がありませんので、小学校の間にしっかりとこの泳ぐ力をつけられるように、ぜひ努力をお願いし

たいと思います。以上です。ありがとうございました。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

中村委員。

○中村功委員

私も1点だけ、このところ、学校生活支援事業、中事業のところについて、先ほどから聞かれていますので、1点だけお願いしたいなと思います。概要書を見せていただきますと、ユニバーサルデザイン化事業の委託が3校に委託をして、授業の分かりやすい在り方の研究をすると、こういうことでありますが、現在これまでに参加したというのか実績というのは、32校ありますが、毎年度やっていくのか、どのような形でなっておるのでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

毎年3校であります。これも公募をしまして、希望される学校をこちらのほうで選定をさせていただいておりますが、委員仰せのとおり、できるだけたくさんの学校のほうにこの授業を受けていただいて、このユニバーサルデザイン化を広めていきたいと思っておりますので、たくさんの応募があった場合は、今までに受けていない学校のほうを優先的に選ばさせていただきます。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

確かに32校中3校と、こうなると、かなり研究を進むところと進んでいない学校に格差ができるかなという気もせんではないんですが、そのあたりの対応はどのようにしておるのでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

今年度は、昨年度の受けた学校と全て違う学校に受けていただいております。また、研究授業のほうも、毎年委託校でやっておりますので、それを他の学校の職員も見られるようにと、来年度のほうは考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

ありがとうございます。やはりそういうところが先進的な学校が、後進的と言うと失礼ですが、ちょっと理解がまだされていないとか、支援が弱いところの勉強できるような、お互いの学校で何か連携が取れたらなと思います。確かにこの3校というのは少ないように思いますので、やはり予算も限られておることとは思いますが、ぜひこういうところは全校的にしていただきたいなど、一斉にスタートして支援ができるようにしていただきたいなど、そのように思います。ありがとうございます。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

この項で幾つか聞かせていただければと思います。皆さんお聞きしていただきましたんで、重複しない範囲で簡単に聞かせていただければと思います。まず、1つ目、先ほど来、お話があった学校支援員と教育支援ボランティア、このあたりで1点だけお聞かせをいただければと思うんですけれども、昨今、民間の給料がちょっとずつ上がってきている中で、この学校支援員さん、もちろん最賃を下回っているということはないと思いますけれども、少し民間の給料のほうが公が出しているものよりも高くなってきているような話がちょっとずつちらほら聞こえてきて、例えばアルバイトの時給1,200円みたいな話が結構出てきているので、そのあたりどんなふうに世情をつかんでいるかとか、来年度に向けて何か変わるところがあれば御紹介をいただければと思います。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

学習支援員の給与に関しましては、市会計年度任用職員の規定により給与されております。委員御指摘のとおり、給与に関しましては、他市町の状況を調査して、また研究してまいりたいと思います。今、学習支援の方々、児童生徒の支援、教育に情熱を持って業務に従事していただいておりますが、現時点においては、この令和6年度の募集に当たっては、ほぼ募集どおりの人数の応募がある状態ではあります。以上でございます。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。何が言いたいかというところ、介護なんかでもそうですけれども、大変な職種であれば、やっぱりそれに見合った給料を出さなきゃいけないということも当然あると思いますので、いろんな形で雇用が継続できる、それは選んでいただけるということも含めて、ぜひともいろんな研究をしていただければと思います。

もう一点、部活動支援員の配置事業についてもちょっとお尋ねしたいんですけども、昨日、朝のNHKのニュースで、愛知県がこの部活動支援員のことで大きく今年度実証実験をして、来年度、名古屋以外の全市町で広げるということで、人材バンクの活用という話を、システムを全部愛知県がつくるというような話がありました。

その中で、伊勢の話を聞いていると、あまり県の影が見えないなということとあれなんですけれども、愛知県がいいなというか、三重県の悪口を言うわけにもいかんのですけれども、そういった県との連携であるとか、競技によっては多少広範囲に募集しないと、逆に指導者がいないというような競技も当然ある中で、そういったことも含めて愛知県は多分やっているんだと思うんですけども、これ県からの連携というか、県からの指導であるとかそういったものというのは実際あるのかないのかだけちょっとお聞かせください。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●東端学校教育課副参事

伊勢市は、令和3年度に三重県のスポーツリーダーバンクというのがありまして、それを活用させていただいて部活動指導員を配置しました。現時点では、システム化とかはしておりませんので、他市町の状況を注視しながら、これからも研究してまいりたいなと思っております。以上です。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。県で一括でシステムをつくってもらえば、ある意味、楽ができるということとあれなんですけれども、そういう部分はあると思うので、ぜひともほかの他市町というよりは、ほかの県も含めていろいろ見ていって、こちらから訴えるようなこともしていただければなと思います。助けてくれと、やってくれというような形も一つかなというふうに思います。

その中で、もう一点、先ほど井村委員の御質問の中で、地域にどんどん振り分けていくというような話があったんですけども、実際この部活動、前回の委員会のときにも言いましたけれども、部活動の対象の外にあるような競技、例えば今回であれば一般質問の中で大西委員もお話しされていきました弓道なんかもそうですけれども、そういったものを例えば学校の中で紹介をしていくことで、より早くということちょっと語弊があるな、部活動が学校の手から離れていくような段取りもできるかなというふうに、もしくは子供の選択

肢が広がるかなとも思うんです。そういった今、部活として実際存在していないもの、すごく分かりやすいのと言うとボルダリングなんかはそうですけれども、オリンピック競技ですけれども、当然学校にはそんな施設あるわけないので、そういったものとかも含めて子供に紹介するというのもやっていかなきゃいけない事業かなとも思うんですけれども、この部活動指導員配置事業とその地域のそういったところの関わりというのはどんなふうにお考えでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●東端学校教育課副参事

部活動指導員につきましては、やっぱり学校の要望に応じているという部分はあるんですけれども、いろんなスポーツを紹介するというのは、教育委員会やスポーツ協会、連盟等も含めて紹介をしていければなというふうには考えております。以上です。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。ここでもうこれは結構なんですけれども、協会とか、先ほどいろんな話がありました。団体としては、やっぱりスポーツの普及をしたいけれども、学校へのアプローチが方法が知らないとか、ないというところも多分たくさんあるので、いろんな競技をぜひ受け入れていただければなというふうに思います。

続いて、次のページ、123ページの小中学校適正規模化・適正配置推進計画、大事業5について、お尋ねをさせていただければと思います。端的に、令和6年度どのような事業を、これ予算23万3,000円とついていますけれども、どんな事業をされるのかをお聞かせください。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

事業内容としましては、先進地視察、それから説明会の会場料等を予定しております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

先進地視察と説明会ですね。少しもともとの本会議場でも今年度お話しさせてもらった

と思うんですけれども、市民の皆さんからも、多少計画が遅れておるということに御心配の声をいただいているところではございます。今、統合が少し、統合というのか適正配置・適正規模化が多少スムーズにっていないような状況にも僕は見受けられるかなと思うんですけれども、状況としてはいかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

依然、児童数の推移に変化が見られることなどから、統合時期の決定に至っていない状況でございます。今後、社会情勢や財政状況等の変化によっては、必要なタイミングの対応を行いまして、児童にとってより望ましい教育環境の実現を目指したいというところでございます。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

もう少しだけ詳しく教えていただければと思うんですけれども、今その生徒数の推移というのは、1期で残された学校が、今御答弁いただいたとおり、生徒数の推移がどうもかみ合わないというようなお話でしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

1期のみならず、2期につきましても、同じような形で推移しております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

もう少し詳しくお願いしてもいいですか。

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

1期につきましては、早修、それから中島、佐八小学校につきましては、思ったよりも増えておると。それから豊浜東、豊浜西、北浜、東大淀につきましては、思ったよりも減りが多いというところでございます、第1期につきましては。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

今お話しいただいたのは、当然あまりいたずらに、拙速にというのは、教育委員会の立場というのも当然分かるんですけども、本会議で言ったとおり、1期が進まなきゃ2期が進まないというような現状も、僕は今のところはあくまでも計画が変わっていないので、あると思っております。

その中で一番懸念をするのは、推移を見守るという形で来年度進んだときに、来年度が終わって、この3月の予算委員会ぐらいに来たときに、実質成果がなかったと。適正規模・適正配置は、令和6年度は何も進まなかったというような形になってしまうのを僕はちょっと懸念をしております、本会議場では、1期・2期計画をくっつけたらどうかという話もさせていただいたところでもありますし、今のお話しであれば、もともとの教育委員会がこうでなければならぬというような形をつくったときの計画よりも、人数が少ない学校が既にあるのに適正規模・適正配置が進んでいないというのは、理想の教育環境がそれかという話はいろいろ意見はあるにしても、本来もともとと言っていたこととちょっと違うんじゃないかというようなことも含めて、ちょっと懸念が僕はあるわけですけども、結論を出すであるとか、もしくはこの中に1期・2期を含めてもう一度計画を見直すための会議を開きますという予算があればいいんですけども、そういうのもちょっと僕には見当たらなかったもので、そういうことも含めて、このままいくと、ひょっとすると住民の皆さんが納得していなかったら、成果がないというような結論になるのを大変な危惧があるんですけども、いかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

第1期に残っております早修等の3校、それから豊浜東以降の4校につきましては、引き続き継続をして検討をしております。第2期につきましても、取り巻く環境、それから児童生徒数の推移、こちらも勘案しまして、第1期の計画の完了を待たずに、見直しについても引き続き研究してまいりたいと考えております。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

本会議場でもお話をしたので、これで最後にしようかと思うんですけども、実際、第2期の学校の中でも、今、豊浜、北浜とかあちらのほうでは、もともとの人数、計画した人数よりも下回っているというような話がありましたけれども、第2期の学校でも、既に待っている間に下回っているような学校もあるかと思えます。そういった学校をやっぱり放っておくのは、僕はあまりよくないかなと思うんですけども、少し責任のある方の御答弁をどなたかいただければと思います。

◎宮崎誠会長
事務部長。

●鈴木事務部長

すみません、野崎委員の質問ですが、本会議場でもお話があったかと思います。今、課長も答弁申し上げましたように、第1期が教育委員会としては、やはりよりよい教育環境を整えていくためには進めていくべきものというふうに考えております。第2期につきましても、ほかに御指摘いただいている子供の数が増えている学校につきましても、教育環境をよりよいものにとこのような必要は十分感じているところです。いろいろな状況を勘案しながら、積極的には進めていきたいというふうに考えておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。以上です。

◎宮崎誠会長
他に御発言はありませんか。
副会長。

○楠木宏彦副会長

今、学校生活支援事業の中の学習支援員のことについて随分議論されましたけれども、そのことについて若干お伺いしておきたいと思います。このまず89人になるということなんですけれども、これは新年度が始まる時点でそれぞれの学校にここは何人、ここは何人というふうに配置されているものなのか、それとも全体で必要に応じて配置していくようなものなのか、どうなんでしょうか。

◎宮崎誠会長
学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事
新年度のスタートとともに、各校に配置をさせていただきます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長

この支援を必要な子供というのは、例えば学校始まって何か月かして、そこでやっぱりこの子は支援が必要だなというようなケースも出てきたり、あるいはそうではなかったんじゃないかみたいな子供も出てきたりすると思うんですけれども、その辺の対応はどのように考えていただいていますか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

支援が新たに必要になるとか、もう担任1人で支援はなく大丈夫であるとか、年度内の支援の変化につきましては、その学校内で体制を組み替えていただく、または緊急に必要な場合は、教育委員会のほうにお話をいただいたりしております。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

そうしますと、最初にこの学校に何人、何人というふうに配置されて、そこで何とかしていくと、それぞれの学校で工夫してやっていく、それで足りなければ教育委員会のほうに支援を頼むと、そのようなことになるんだと思うんですけども、ここに学習支援員の配置の見直しというふうな言い方をされているんですけども、その内容はそのようなことでよろしいのでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●中川学校教育課副参事

一律に各校に配置をするのではなく、先ほどもお答えさせていただいたことと重なりますが、命に関わることであったりとか、障がいの種別が複数にわたっているとか、生活の介助が必要など、そのお子さんの状況に合わせて、こちらのほうは各校に配置のほうをさせていただいております。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、目3教育振興費の審査を終わります。

次に、122ページの目4教育研究所費について御審査願います。

(目4教育研究所費)

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

吉井委員。

○吉井詩子委員

大事業2、教育研究所運営事業、中事業4、子どもの学び場づくりサポート総合推進事業についてお聞きをいたします。これ6,300万円ほど大変大きな金額、予算組んでもらっているんですが、以前にあった子ども輝き生き生き総合事業でありますとか、不登校対策サポート事業などと一緒にしたということによろしいですか。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

先ほどおっしゃられましたが、子ども輝き生き生き総合推進事業、それから不登校対策子ども未来サポート総合推進事業の2つの事業を統合いたしまして、増加する不登校への対応と誰一人取り残されない学びの保障を目指して、全ての児童生徒の多様な居場所の確保と早期対応、早期支援を目的に立ち上げた事業でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

今の御答弁でも、多様な居場所づくりというふうな御答弁もいただきました。今回この説明書を見せていただきましても、別室、ねすとルームをつくると、居場所づくりをする、また、サポーターを6校に配置するという事なんですが、これは別室を新たに用意するという事と、また今ある別室にサポーターに行っていくということによろしいのでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

これまでも何らかの理由で学校には来られるけれども、教室に入れないというような児童生徒もおります。そのようなお子さんの居場所というふうにもなっている学校もありますし、別室がないという学校もありますけれども、このたび6校のほうには別室のほう、今まであるお部屋を少し工夫していただいたり、また新たに設置していただいたりして、ねすとルームのほうを設置しまして、そこにサポーターのほうを6校に配置していくという形でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

その6校というのはどこの学校か聞いてもよろしいでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

現在ですけれども、予定としましては、四郷小、中島小、明倫小、みなと小、小俣小、明野小の6校を考えております。ただ、また不登校の状況によっては、変更する可能性もございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

今聞かせていただいた学校の中で、大規模校も入っているんですが、この大規模校では教室が足りないというようなこともお聞きしているんですが、そういう別室の余裕というのはあるのでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

大規模校におきましては、空き教室もなかなかないというようなところもございますけれども、相談室のほうをねすとルームというふうに今整備のほうをしていただいております。旧パソコン室等をもう一度整備して使用したりすることもございます。また、各校、現在パーティションとかアコーディオンカーテン等を整備いたしておきまして、4月から配置が可能になるように、今のところ準備をしておるようなところでございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

大規模校では、やっぱり旧パソコン室とかを整理するとか、パーティションを使うとか、ちょっと何か無理があるようなところもあるのかなと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

学校からの要望も希望もございますので、このような部屋にしたいとかというふうなところも聞かせていただいて、できるだけその希望に沿うような部屋にしたいと思っております。また、該当の児童の意見も、こういう部屋にしたいとか、こういうものを置きたいというふうな子供の意見も取り入れながら、部屋のほうを整備してまいりたいと考えております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

今回、一般質問でこどもまんなかということで、こども基本法のこと、子供の意見表明の権利についても質問もさせていただきました。その辺のところでは子供たちの意見を聞いてこの部屋をつくっていただくということで、子供の意見を最大限生かしていただきたいと思っております。今までもそういうことをしていたところもあったということで、今までのところでもそういうふうな子供の意見を聞いて設置したところとかあるんでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

今までも別室のほうは、そのように子供の意見を聞いてというところもあるかとは思いますが、この4月の配置に向けては、特に今までちょっと学校には行きづらいと言いますか、来られるんだけれども短時間しか過ごせないというふうなお子さんもいる学校におきまして、その子の意見を聞きまして、このような部屋にしたいとか、こういうものを置いたらどうかとかというふうなところで、その児童のほうに学校に来られるようになってきたというふうなお話も伺っておりますので、今後も児童の意見をしっかり聞いて、部屋のほうをつくっていきたいと考えております。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

私からも、今、吉井委員の御質問があった子どもの学び場づくりサポート総合推進事業についてお聞かせをいただきたいと思っております。いろいろと今2つの事業を統合してということで御説明もいただきました。また、内容につきましてもいろいろとお聞きをしていただきましたけれども、もう少し聞かせてください。この2つの事業を統合したということで、6,300万円ということになりましたけれども、もう少し予算の内訳等、分かれば教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長
教育研究所長。

●上永教育研究所長

主に、そのねすとルームサポーター、非常勤講師、教育コンサルタント、児童生徒自立支援に係る人件費のほうで約5,600万円、WEBQUの委託料で約500万円、その他研修会の講師や助言者の費用、教育支援センターの活動費、生徒指導負担金等でございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長
吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。5,600万円が人件費ということで、いろいろとお金をかけていただいているかと思えます。ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。先ほど御説明もありましたそのねすとルームのほうに、6校、先ほど聞いていただきましたけれども、サポーターを設置していただくということで、先ほども質問させていただいたんですけれども、このサポーターの方についても、資格等があれば、何か必要なものが教員免許等要るのかどうか、その辺教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長
教育研究所長。

●上永教育研究所長

特に教員免許や資格等は必要ございません。設置する学校の学校長の推薦またはハローワークで公募をして、申込みのあった方を面接して配置を決定しております。

◎宮崎誠会長
吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。よろしくお願ひしたいと思えます。いろいろ事務の概要書の中には、自立支援員さんを3名に増員するとか、また教育コンサルタントを配置するとかそういった形で記載をしていただいておりますけれども、その辺もう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長
教育研究所長。

●上永教育研究所長

児童生徒自立支援につきましては、今年度4月当初に2人体制としていただきましたが、教育支援センターの通級生の増加や、また医療機関等の関係機関や他の部署との連携を強化していくことを図るために1人増員して、令和6年度は3人体制で支援を充実させていきたいと考えております。

また、教育コンサルタントの配置につきましては、現在、教育支援センターNESTにおります不登校担当の2人のほうが配置されておりますので、引き続き2人で行っていききたいと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。しっかりとよろしくお願ひしたいと思ひます。今回のこういった対策につきましては、基本的には不登校対策ということではしていただけるのかなというふうに考えております。まず、子供たちにとっては、不登校になる前に「苦」登校、苦しい登校になっている皆さんもいらっしゃるのではないかとこのように思ひます。そういった苦登校になった児童生徒をいかに楽しく学校へ来ていただけるようにするのか、その辺が大事なことで、今回のねすとルームはこの一つであるというふうに思ひます。中には、児童生徒のいじめであったり、また先生と合わんとか、そういったいろんな場合もあろうかと思ひますけれども、ぜひ学校の教室へ来ていただけるように児童生徒に寄り添っていただきたいと思ひますけれども、またこのねすとルームに行くことで、それが原因でまたいじめられることがないように配慮をしていただきたいと思ひますけれども、その辺の考え、最後にお聞かせください。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

学校で不安な気持ちで過ごす子供たち、それからその子供たちが安心して過ごせる部屋ができたことにつきまして、担任や学校長のほうから児童に話もして、学校だよりで紹介したりなどしてまいりたいと考えております。また、不登校傾向にある児童生徒だけではなくて、全ての児童生徒一人一人に寄り添った支援、居心地のいい居場所づくりを目指して今後も取り組んでまいりたいと思っております。居心地のよい環境で過ごすことで、少しでも登校できる児童が出てきたり、家から出られない児童の一步を踏み出すきっかけになればと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

中村委員。

○中村功委員

私もこの大事業2、教育研究所運営事業の中の子どもの学び場づくりサポート総合推進事業で1点だけお伺いしたいと思うんですが、今、るる御質問をされていましてので、そこで思っているのが、今6校のねすとルームを配置すると、こういうことではありますが、それ以外の学校の対応というのはどのようになっているのか、お聞かせ願いたいと思います。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

小学校の中で6校というふうに選ばせていただきました。別室が現在ありまして、不登校の子供たちがいるという学校もございます。小学校の場合、そこに今のところそういう子供たちがいる別室には、空き時間の教員であったり、管理職であったり、養護の教諭であったりが対応しております。全ての学校にサポーターのほうを配置というふうなところもありますけれども、まずはモデル校でその別室をつくることによってどれだけの効果があって、子供たちの支援ができるのかというところを検証させていただいて、この検証を基にその先にはそのような学校を増やしていきたいというふうには考えております。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

よく分かるんですが、今必要としている学校がどれぐらいあるのか、形はいろいろあるかと思うんですが、今回のこの6校についてはもう十分理解するんですが、その全体がちょっとよく見えやんもんで、どれぐらいあって、どれぐらい今処理というのか対応しているのかを確認したいんですが。

◎宮崎誠会長

教育研究所長。

●上永教育研究所長

現在、22校小学校があるんですが、不登校の児童生徒が今いるという学校が18校あります。そのうち別室を使って児童がいるという学校が4校になっております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

そうすると、18校のうち4校があつて、そして今回6校をやると、そういう足し算でいいわけですね。そうすると、まだまだ必要とされる学校があるというふうに理解しました。今後もこれは予算から外れますので、もっと積極的にこの事業に取り組んでいただきたいと思います。ありがとうございます。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、目4教育研究所費の審査を終わります。ここで、11時10分まで休憩とします。

休憩 午前10時58分

再開 午前11時08分

◎宮崎誠会長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

次に、目5人権教育費について御審査願います。人権教育費は、122ページから125ページです。

(目5人権教育費) 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、目5人権教育費の審査を終わります。

次に、124ページの目6教育集会所費について御審査願います。

(目6教育集会所費) 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、目6教育集会所費の審査を終わります。

次に、項2小学校費について、項一括で御審査願います。小学校費は、124ページから127ページです。

《項2小学校費》

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

吉井委員。

○吉井詩子委員

すみません、目2小学校教育振興費、すみません、ごめんなさい。目1小学校管理費の大事業3、小学校整備事業、中事業、小学校整備事業が昨年よりも予算が減っているんですけども、この辺は理由教えていただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

昨年度は、豊浜西小学校の壁等の改修がございました。今回はそういった大きな改修というのはございませんので、ちょっと額が変わっております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

それと、このほかのことでどのような整備をなされるのか、内容を教えてください。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

主に、学校施設の整備の関係でブランコの更新工事、それから放送設備の更新工事等を予定しております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。学校からの要望とかいろいろあると思うんですが、この要望については以前よりも減っているのか、増えているのか、どうでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

学校からの要望につきましては、毎年度修理の部分が違ってきますので、一概に多い少ないというところは数えるところは難しいところなんですけれども、内容によって、その年々で検討させていただいております。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。また学校からの要望にしっかり応えていただきますようよろしくお願いいたします。

それから、目2の小学校教育振興費の大事業2、就学奨励事業、中事業、要保護及び準要保護児童生徒援助事業、こちら中学校費のほうでも出てくるんですが、この事業にしまして何人の方を見込んでいるのでしょうか。

◎宮崎誠会長
学校教育課副参事。

●西山学校教育課副参事

今年度のほうは、小学校は791名、中学校は440人を見込んでおります。以上でございます。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

前年度より増えているということで理解をいたします。この方々に対しての周知の方法というのは、今年と同じようにされますか。

◎宮崎誠会長
学校教育課副参事。

●西山学校教育課副参事

周知のほうは、例年同じようなやり方をさせていただいております。在校生に関しましては、学校のほうから案内のほうは出させていただいて、新入学児については、御自宅のほうへ案内のほうを郵送させていただいております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

この申込みのほうなんですが、やはりちょっと申込みしづらいというような気持ちを持たれる方があるといけませんので、学校が基本だと思うんですが、それ以外にも教育委員会のほうでもいいとか、そういうふうなことはやっていただけますか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●西山学校教育課副参事

基本的には学校のほうに申請のほうをお願いしておりますが、学校のほうに様々な事情があつて提出が困難という場合でありましたら、教育委員会のほうで一旦お受けをさせていただきますまして、その後また学校のほうと連携をさせていただくように予定しております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。それでは、周知の段階でそういうふうな方法もありますというふうに言っていたくんでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●西山学校教育課副参事

周知の段階では、学校のほうに御提出をお願いしております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

学校のほうに行きにくいんですけれどもということも言いにくいと思いますので、できれば基本的には学校で、その都合の悪い方は教育委員会でも受けますというような形にさせていただいたほうが、より申し込む人に対しての寄り添っているということになると思うんですが、その点いかがですか。

◎宮崎誠会長

学校教育課副参事。

●西山学校教育課副参事

吉井委員のおっしゃる対象の方いらっしゃるかと思うんですが、今現在、学校のほうに申込みのほうをお願いしております理由としましては、担任の先生であったり、事務の方であったり、養護教諭の方、児童と保護者とふだんからお話、会話をすることで家庭環境に変化があつたということ迅速につかみ取っていただけるというところで、学校のほうにお願いをしていただいております。直接教育委員会ということであると、

そこら辺の情報がなかなかつかみにくいというところで、より迅速な対応がしにくいというところもありまして、今現在は学校のほうにお願いをしている段階です。

御指摘のように、教育委員会のほうでも受けられる、提出ができるかどうかというところのほうは、また検討のほうをしていきたいと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

確かにおっしゃるように、ふだんから状況をつかんでみえるということで、その点は理解いたしました。ですが、新たにという方もいらっしゃると思いますので、その辺のところもまた御検討願いたいと思います。よろしく願いいたします。

◎宮崎誠会長
他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長
他に御発言もないようでありますので、項2小学校費の審査を終わります。
次に、126ページの項3中学校費について、項一括で御審査願います。

《項3中学校費》

◎宮崎誠会長
御発言はありませんか。
中村委員。

○中村功委員

中学校整備事業の大事業の中で、2番の中学校長寿命化改修事業についてお伺いしたいと思います。概要書を見せていただきますと、令和6年度の内容は、屋内運動場のいわゆる体育館、その設計が計上されていまして、令和7年度には工事に入るところなんです。今回この厚生中学校が選定された理由はどのような理由で選ばれたんでしょうか。

◎宮崎誠会長
学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

まず、令和5年度におきまして、築年数が古い中学校3校の屋内運動場の耐力度調査を行いました。その結果、3校とも長寿命化改修を行う方向としまして、まずはその中でも最も老朽化の進む厚生中学校の体育館の改修を行いたいと考えております。令和6年度に

設計、令和7年度に改修を行います。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

そうすると、その3校がなつたと、こういうことなんですが、予算の関係もあるでしょうけれども、順次年次的に追っていくと、こういうことで理解してよろしいのでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

委員仰せのとおりでございます。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

そうすると、この伊勢の教育というのを見せていただきますと、ここに概要書で昭和40年代から昭和50年代と、こういうと、屋内運動場に限っていいますと3校ではないような気がするんですが、その辺は先ほど言った耐震の調査じゃなく、何か寿命化の調査をするのに何か3校と言われましたが、これを見ると昭和40年代だけでも4校あるんですが、その辺はどのようなふうにかえたらいいのでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

おっしゃっていただきますように、体育館につきましては40年以上の学校が小学校で11校、それから中学校で5校ございます。それを基本的には先ほどの古い築年数のたつておるものからやっていくというふうな計画でいきたいと考えております。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

そうすると、先ほど3校と、こういうふうを確認したんですが、11校と5校も長寿命化計画に入ると、長寿命化の改修事業をしていくと、こういうことなんでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

その古さにもよるんですけども、調査をしまして、その11校、5校にも検討してまいりたいと考えております。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

その古さにもよるといのがちょっと解せんのですが、古いから調査をするんですよ、まず。それが11校と5校と、16校になるわけですね。そのうち3校調査をしたんですか。その辺の整理だけちょっとよろしくお願いします。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

最も古い3校を先にさせていただいております。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

3校を具体的に進めていくと。その後11校、その3校も含みますが11校と5校を順次年次的に追っていくと、こういうふうに理解させていただきました。

そうすると、何年かけて改修していくというのは、非常に財源的なこともあるので難しいと思うんですが、今は体育館のお話をしていますが、校舎の関係はどうなるんでしょうか。先ほどの野崎委員の適正配置基本計画とも重なるので、その辺の整合性とか関係はどうなるんでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

おっしゃっていただきましたように、学校施設の長寿命化につきましては、先ほどの伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置計画の進捗状況を踏まえながら、築年数、劣化状況等を鑑みて実施してまいりたいと考えております。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

分かりました。進捗を見ながらと、進捗は止まっとるわけですよ、適正配置計画は。そうすると、それが止まっとると、長寿命化は、僕はむしろ積極的にしていかなあかん話なんか。1年考えとると、どちらかはやっぱりしないとどんどん年数が老朽化していくわけですので、もちろん適正化計画も検討を進めていただきたいんですが、そうはいつでも長寿命化計画というのは新設と違いますから、そやでそれは年々、5年も6年も検討を考えとったら、今入った子がもう卒業してしまうという、小学校の場合そうなりますので、やはりある程度計画を明示していただけるとありがたいな、全体的な計画ですね。年数は財源的なことがありますので、無理なこともあるかと思うんですが、やはり順番的なことは、今回のように厚生中学校が一番古くて調査の結果も悪かったと、だから1番と、それはよく分かるんです。だから、そういうことを早いことあとの学校2校も予定されとるといことで、それは学校またどちらから先やという話があるので、学校名は聞きませんが、やはりそういうような計画、出せられるような計画を出していただきたいなど。概要書では、この予算の平準化を計画的に進めるというのを書いてありましたので、そのあたりも実行していただきたいと、このように思います。ありがとうございます。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

それでは、僕も同じところで、同じこの中学校の長寿命化改修事業のところで御質問をさせていただければと思います。まず、予算説明資料の中に、事業背景のところ昭和40年代から50年代に整備された本市の多くの学校施設が老朽化し、その対策が重要な課題となっているという形で御記載がいただいておりますけれども、この記載については中村委員とかそれから吉井委員とかと一緒に本会議場で改修をどんどん進めていくべきだという形で共に質問をしてきた身の一員としては、こういうふうに記載していただいたことについては、大変な僕は評価をしております。その上で、この中学校の先ほどの厚生中の体育館について、少しお尋ねをさせていただければと思います。今回改修ということで、新設ではないような形で御記載をいただいとるように見えるんですけども、ここで少し計画について、どんな形の改修をされるのかというのを、イメージを教えてくださいたいと思います。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

まず、屋内運動場の長寿命化改修としましては、大きく2つございます。耐久性の向上、それから機能、性能の向上と2つございまして、耐久性の向上としましては、今回鉄筋の腐食対策などを行います。それから機能・性能の向上としまして、外部・内部仕上げのリニューアルや照明のLED化などの電気、トイレなどの衛生設備等の更新や改修を行ってまいります。以上でございます。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。改修と言うと部分直しなのか、それとも大幅な改修なのかというところで、少し受け取る印象も違うかなと思うんですが、大幅な恐らく修繕というよりは、リニューアルに近いような形かなというふうに僕はこれを見て思っているんですけども、その中で、厚生中学校というところの場所というか地理上の問題で、防災機能というのを備える必要があるのではないかなというように話をちらほらちょっと耳にします。というのは、当然隣に大きな病院があるので、そういったことも含めて、実際に大きな災害が起きたときに、いろんな意味であそこを使われるような、それは災害の避難拠点としてかもしれませんし、もう一つ上のひょっとするとその病院に運ばれる方、もしくは病院に運べない方も含めてそこに入ってくるんじゃないかというような話も、そういったことも考えて総合的に考えていく必要がもっとあるんじゃないかなというように話を意見としてお伺いすることがあるんですけども、そのあたりこの改修の中で、例えばハザードマップの水害の状況とかを見てこういうふうにしていきますとか、例えばかさ上げをするのかせんのかとか、そのあたり防災としての機能をどんなふう考えているかをお聞かせください。

◎宮崎誠会長

危機管理部長。

●日置危機管理部長

委員仰せのとおり、やはりその隣には日赤があったりとか様々な要因がございます。そのことにつきましては、教育委員会と話をさせていただく中で、やはり津波から逃げられるかどうかというふうなところに着眼いたしまして、厚生中学校におきましては、現在校舎の2階以上というのを逃げられる場所というふうなことで考えておりまして、こちらのほうにつきましては、避難できる人数については余裕があるというふうな判断をさせていただいたところがございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

もう一度ちょっと教えていただきたいんですけども、例えば中学校が先ほど隣に日赤があって、そのあと体育館がどのように使われるかというところにできればちょっと絞ってもう一度御答弁をいただければと思うんですけども、その体育館がさっき言った体育館そのものが避難場所になったときに、水害としてその高さが実際大丈夫なのかどうか、もしくはもっと言うてしまうと、ひょっとすると日赤の方が、日赤とか病院が近くにある以上は、そこに多くの救急搬送車であるとか、もしくは非常に体調が悪い方、それは亡くなる方も含めてですけども、運ばれてくるような場所になるかもしれないというような話の懸念をされとる方もやっぱりいらっしゃるの、そういうことも含めて施設としてそのあたりをどんなふうに防災のある意味拠点として考えているのか、そこまでは考えていないよという話なのか、そういうことも含めてお聞かせをいただければと思います。

◎宮崎誠会長

危機管理部長。

●日置危機管理部長

日赤には様々な方が運ばれてくるということを想像されます。その中で、やはり状態が悪い方について避難所にいていただくということは難しいと考えておまして、その辺が病院の状態にもよるんですが、トリアージがされて別の場所へ運ばれていくということで考えておりますので、体育館の中にちょっと状態が悪い人が入ってくるということは、現在考えておりません。

体育館がやっぱり防災の拠点になるというふうなところをどこまで考えるかというのは難しいところではあるんですけども、やはり状況をしっかり情報を取り合いしながら、そこをどういうふうにしていくかというのは、また今後考えていきたいと思うんですが、今のところ、その体育館が拠点になって何かということは現在のところ考えていない、そのような状況でございます。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。当然、市には防災拠点となるような、それは指令を出すところも含めていろんな場所がありますので、いろんな計画の中でそんなふうにしていただければと思います。当然そういう中で、日赤さんにこんな感じでやるんだよという計画の報告もしながら、いろいろな事業を進めていただければと思います。

最後に1点だけ、先ほど当初予算説明資料、さっきは褒めたんですけども、1点だけちょっと御指摘をさせていただきたいところがあるんですけども、デジタル活用というところがございます。ここには委託業務や工事において、ICTの活用を積極的に検討するという形で記載がございます。少しページを遡っていただいて、66ページ、これ私どもの所管ではないんですけども、ここも業務委託や工事において、ICTの活用を積極的に

に検討するというのがあって、その前の64ページ、65ページも実は記載内容が同じです。

工事の分野なので、ひょっとすると違う課に配慮をしてこんな形の記載になったのかなと思うようなところもあるんですけども、本来的にはデジタル活用というのは、例えば体育館の中でW i - F iを整備して、さっきの避難の話であれば、避難所として活用するときにもすぐ使えるようにするであるとか、体育館の中にデジタル系を新しく設置することで、例えばバスケットとかするとき、わざわざそういう電光掲示板を運んでこなくてもいいようなものをするとか、もしくは何かモニターの機能を備えるとか何かそういうことを本来ここに記載されて、その上でこういうような効果がありますというような記載がされるべきかなというふうに僕は思っております。そういう意味では、72ページ、73ページなんかは割とよく書かれていたりだとかもしますし、75ページはV Rを利用した施設という形で、新しいことにも取り組もうかなというような意思が見えるんですけども、こういった改修のときに、業者にこれをしてもらおうとか、そういうところで止まってしまふのはちょっともったいないなと思うんですけども、いかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

学校施設整備課長。

●木村学校施設整備課長

委員仰せのとおり、この私どもで言いますと、体育館に改修したときにW i - F iの設備を設ける等を考えながらやっていくとか、そういったところを考えていきたいと思いません。以上でございます。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

もうこれ以上は言いませんけれども、この予算説明資料のこの中でこういうふうな指摘をするのは初めてでは僕ないですよ。ごめんなさい、教育委員会だけじゃなくて、ほかの委員会に入ったとき。なので、ぜひとももっと前向きに、例えばさっきのW i - F iを使ったらこんな体育館ができるんじゃないかとか、こんな学校ができるんじゃないかとか、避難のときにこんなふうに便利じゃないかというために、デジタル活用について考えてみてくださいという資料だと僕これ思っていますので、こんなことができるんじゃないかなというようなアイデア出しの一つだと思って、ぜひこの部分を積極的に活用いただければなと思います。以上です。

◎宮崎誠会長

情報戦略局次長。

●大西情報戦略局次長

御意見ありがとうございます。こちらの記載につきましては、当該課のほうがそれぞれ

で考えて、それらを来年度こういうふうに頑張ろうということで示す場所であります。財政を中心といたしまして、情報戦略局のほうでこちらのほうは取りまとめをいたしております、内容も精査もさせていただいて、場合によっては修正等も各課に提案をしているところでございます。

おっしゃっていただいたように、少し物足りない内容のものも幾つかあるというのは、おっしゃられたとおりにかなというふうにも反省もしておりますので、今後より一層、連携も密にしながら、各課と調整をさせていただきたいと思っております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

暫時休憩します。

休憩 午前11時32分

再開 午前11時33分

◎宮崎誠会長

休憩を解き、会議を続けます。

他に御発言はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、項3中学校費の審査を終わります。

次に、項4幼稚園費について、項一括で御審査願います。幼稚園費は、126ページから129ページです。

《項4 幼稚園費》 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、項4幼稚園費の審査を終わります。

次に、128ページの項5社会教育費について御審査願います。

なお、項5社会教育費のうち、当分科会の審査から除かれるのは、目3文化振興費です。それでは、目1社会教育総務費について、御審査願います。

《項5 社会教育費》（目1 社会教育総務費） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、目1社会教育総務費の審査を終わります。

次に、目2社会教育推進費について御審査願います。

（目2 社会教育推進費） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、目2 社会教育推進費の審査を終わります。

次に、130ページをお開きください。

目4 青少年育成費について御審査願います。

(目4 青少年育成費)

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

大西委員。

○大西要一委員

こちらの青少年育成事業、1番、青少年健全育成推進事業、こちらでお教えいただきたいと思います。こちらの事業について、予算が17万円ほど減っております。令和6年度の主な業務内容、事業内容を教えていただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

青少年健全育成推進事業につきましては、大きく分けて2つの事業で構成のほうをさせていただいております。1つ目が、伊勢市青少年相談センターの運営事業でございます。相談センターでは、青少年の非行防止を目的といたしまして、相談業務をはじめ青色パトロールカーによる巡回や青少年指導員による街頭指導等を行っている事業でございます。もう一つのほうが、伊勢市青少年の育成市民会議の運営に関する内容となっております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

2つの事業が主な事業ということでお答えいただきました。私も相談センター事業のほうになると思うんですけども、青色パトロールの巡回であるとか青少年指導員さん、こちらの方が街頭指導などをされているというのも時々お目にかけます。イメージは分かるんですけども、2つ目の青少年育成市民会議について、もう少し詳しくお教えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

青少年育成市民会議の内容についてでございますが、こちらにつきましては、市内の各中学校区に設置されております青少年健全育成協議会、いわゆる健育と呼ばれている組織があるんですけれども、そちらの皆さんが集まって構成されている組織が青少年育成市民会議となっております。内容についてでございますが、各健育のほうでは、あいさつ運動や花いっぱい運動など、地域に応じた活動のほうをしていただいておりますので、市民会議ではそちらのほうを支援させていただいておるというところでございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

各中学校区の健育の皆さんが集まられて市民会議というのを構成されとるということです。指導員さんの皆様には、非行防止など街頭指導もやっていただいております。本当に感謝申し上げますところでございます。一方で、時代の流れもあって、児童生徒の皆さんの多くがスマートフォンでSNSを使うというのが当たり前にもうなっております。SNSによるいじめや誹謗中傷というのが目に見えにくいという問題となっております。大変危惧をしておるところでございます。市民会議では、このようなことも議論等されておるのでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

市民会議の議論の内容といたしましても、子供たちを取り巻くSNSの環境については御議論いただいております。特にスマホの所有の低年齢化等もありまして、うまく付き合っていくのはどうしたらいいんかというような話もございました。議論の内容といたしまして、令和4年度の昨年度の事業になるんですけれども、各小・中学校のほうにスマホやネットに関する勉強ができるワークブックというものも配らせていただいたりもさせていただきました。それで、今年度の取組にもなるんですが、ちょうど来週の土曜日、16日になるんですけれども、先ほど御紹介したワークブックの著者でございます大学の先生にお越しいただきまして、いせトピアのほうでそのネットの講演会のほうもしていただくというふうに予定をいたしております。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

御議論いただいて、ワークブック、こちらのほうも配られてされとるということでございます。先ほど紹介もいただきましたんですが、もう来週に講演会があるということなん

ですけれども、こちらのほうまだいけるというか、参加はできるんでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

現在も申込みのほうは可能となっております。市のホームページ等で申込みのほういただければと、このように考えております。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

ありがとうございます。今年度のお話を少しさせていただいたんですが、新年度、令和6年度新たな取組であったり方針がありましたら、何かお答えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

来年度の内容につきましては、また総会等で決めていくことになるんですが、この市民会議の目的にもつながるんですが、青少年が抱える問題をしっかりと認識をさせていただきまして、関係機関や地域の皆さんと連携しながら、次世代を担う青少年の皆さんの健全育成に努めていきたいと、このように考えております。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、目4 青少年育成費の審査を終わります。

次に、目5 図書館費について御審査願います。図書館費は、130ページから133ページです。

(目5 図書館費)

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

中村委員。

○中村功委員

すみません、このところ、2番の子ども読書推進事業のところをお願いしたいと思いません。この事業は、今回新規事業として上げられていますが、そのあたりの内容、狙いなんかを教えてくださいなと思います。

◎宮崎誠会長

教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

今回、新規事業ということで上げさせていただきました。これまで読書に関する事業につきましては、予算的な話といたしましては、図書館の運営に関する事業、また図書整備の事業、そして、ブックスタート事業、この3つを今まで柱に上げさせていただいておりました。

この中で、ブックスタートの支援事業につきましては、1歳6か月までに赤ちゃんに絵本を届けるという早い段階での読書活動を支援する取組でもございましたが、来年度の狙いといたしましては、この赤ちゃんの時期だけではなく、幼稚園、保育所、小学校、中学校それぞれの時期におきましても、年代に応じた読書活動を支援できないかということで、この私どもが担当します市立図書館をはじめ関係者皆さんで考えながら、子供たちの読書活動を継続的に支援していく事業というような狙いで組まさせていただきました。以上でございます。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

今まで気がつかなかったのか、小学校、中学校への読書の推進活動、そんなようなことも今聞いてごもっともなことやなと今気がついたんですが、当然ながらそういう意味ではいい取組になるのかなというふうに思います。

この今回、今年度、第4次伊勢市子ども読書活動推進計画をいただきました。これを見るとアンケート、あとのほうの、いろいろ見せていただきますと、小学校から学年が上がるほど、中学になると本を読む割合が大幅に減っていくという傾向がこの表から見られます。また、本が好きなという割合も、僅かではありますその傾向が出ているようになっていました。読書習慣を身につけるということは大変大切と当然ながら思うわけですが、どのように考えておられますか。

◎宮崎誠会長

教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

まず、子供の時期に読書習慣を身につけることは、もうすごく大切なことだというふう

に考えております。特に、自分で文字を続けて読めるようになる時期というのが小学校1年生、2年生頃と言われておりますので、この頃には読書習慣を身につける大切な適齢期と、このようにも言われております。伊勢市といたしましては、先ほども少しお話をさせていただきましたが、ブックスタート事業等、小さい段階から絵本に、本に親しんでいただけるような取組であったり、図書館では読み聞かせの事業等も行っておりますので、こういった小さい頃から本を好きになってもらう、そのような環境を整えていきたいというふうに思います。小さい頃から本が好きになっていただければ、一生涯、本を好きになっていただいて、読書環境にずっと親しんでいただける、そのようなお手伝いができればというふうに考えております。

◎宮崎誠会長
中村委員。

○中村功委員

ありがとうございます。そうすると、この小学校とか中学校というと、社会教育課としてはやっぱり連携というのは随分図書館として必要になってくるようには思うんですが、その連携はどのように取っていくのか、そのあたりのお考えをお示してください。

◎宮崎誠会長
教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

学校との連携につきましては、とても重要というふうに考えております。委員仰せの学校との連携につきましては、市立の図書館、またそして学校図書館には図書館スタッフという方もみえますので、関係各課が一体となって取り組んでいく必要がございますので、その一体となっていく組織、子供たちの活動を支えていく組織としてプロジェクトチームみたいなもの、具体的には子供読書活動の支援のプロジェクトチームというのをちょっとつくらせていただいて取り組んでいく予定で考えております。

◎宮崎誠会長
中村委員。

○中村功委員

その支援プロジェクト、その辺もう少し詳しく教えていただけますか。

◎宮崎誠会長
教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

支援プロジェクトの内容についてでございますが、こちらのほう子供読書が盛んな先進

地、こちらのほうは、子供の読書を支えるいわゆる仕組みというものが出来上がっております。具体的には、少し触れましたが、公共図書館が中心となって、子供たちの読書の推進に関わるメンバーが一堂に会する子ども読書支援センター、建物ではないんですが、そういったセンターという組織のほうを設置されておりますので、そちらのほうを来年度考えていきたいと思っております。

また1つ、もう一点なんですけれども、その組織、プロジェクトチームを動かしていくためには、やはり専門的な人材、こちらのほうが重要な役割を果たしているというようなこともいろいろ書かれておったりしておりますので、伊勢市のほうでもそういった専門的な人材、それをしていく推進員、お手伝いしていく推進員を配置する予定で考えております。

◎宮崎誠会長
中村委員。

○中村功委員

今お聞きした専門員とか、あと推進員、その方はどんなような人になるんでしょうか。どのような方を考えられているんでしょうか。

◎宮崎誠会長
教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

今、専門員と推進員に対するお尋ねですが、まず、推進員につきましては、子供読書の推進に係るプロデューサー的な方で、令和6年度から令和8年度までの間、配置のほうをしていきたいというふうに考えております。どのような方ですかということにつきましては、もちろん図書館司書の資格をお持ちで、この方については、公共図書館と、それから学校の司書としても今まで経験があって、子供読書活動の支援センターの立ち上げの経験もお持ちの方と、このような方を予定しておるところでございます。推進員につきましては、専門の人材と協力しながら円滑に動いていただける方、このような方を考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
中村委員。

○中村功委員

そうすると、その事業の成果というのが目に見る必要があるかと思いますが、数字的目標なんかちょっとなかなか見当たらないのですが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

◎宮崎誠会長
教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

今、委員先ほど子供読書の活動の計画のほうにも触れていただきましたが、計画自体にはその目標数値というものが記載をさせていただきませんが、もう一つ上の上位計画に教育振興基本計画というのがございます。そちらのほうでは、子供1人当たりの図書館におきまして児童書の冊数をどれぐらい借りていただいたかというようなのが目標数値として掲げておりますので、そちらのほう目標が達成できるように取り組んでいきたいと、このように考えております。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

数値目標はあると、こういうことで理解しました。全体の目標はあるというふうに理解しました。

ここで少し電子書籍、令和5年度に5月1日から試験導入を電子書籍ということで導入をされているということなんですが、令和6年度については1,000冊というふうに拡充するようなことが記載があるんですが、その辺はどうなんかなというふうな気が、なかなかタブレットで見ても、最初は興味を示しても、その後の続きがないのかな、そこまでタブレットを見るのかなというふうな気がするんです、個人的に。その辺はどのような、紙ベースのほうが何か読書らしいというのか、そういうふうに考えますが、いかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

教育委員会事務局参事。

●沖塚教育委員会事務局参事

今の本の種類についてでございますが、いわゆる今紙ベースの本、そして電子書籍というふうなお話のほういただきましたが、現時点では、子供たちの児童書において、どちらの種類、紙のほうも電子のほうもどちらでも楽しんでいただける今の環境のほうを整えていきたいと、このように考えております。

◎宮崎誠会長

中村委員。

○中村功委員

電子書籍でも、当然ながら小さい低学年から授業なんかでも見ているということも聞いておりますので、その辺は興味のある書籍をしていただきたいと思います。やはり読書というのは、まず読むということから始まると思うんです。読むのにはどうしたらええかという、興味を持つということで、実は吉井委員からこういう記事を紹介いただきました。この記事は、大谷選手、ヒットもよく今7割も打っているという大谷選手ですが、このグ

ローブを配ったときに、相模原市のほうでは、この私も買って来たんですけども、「不可能を可能にする大谷翔平120の思考」と、こういう本と一緒に各小学校に配ったということを教えていただきました。そして、やはりその子供たちはどういう反応をしたかという、難しそうだけど読んでみたいということが記事になっています。やはり、大谷選手のグローブだけではなく、そういうような大谷選手からの人間性に触れて、それからその行動に移していくということで、これは読むきっかけになるかと思うんですね。僕も吉井委員から頂きましたので、記事を、公明新聞見させていただいたんですが、それ読むきっかけになりました、まだ読んでいませんけれども。

そういうことで、いろいろきっかけが1つ、そういう意味では興味のある、少しちょっと教育的なこととは外れても、話題性のある本なんかもぜひ選んでいただきたいなど、こう思います。終わります。ありがとうございました。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、目5図書館費の審査を終わります。

次に、132ページの項6保健体育費、目1保健体育総務費について御審査願います。

《項6保健体育費》（目1保健体育総務費） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、目1保健体育総務費の審査を終わります。

次に、目2学校保健費について御審査願います。

（目2学校保健費） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、目2学校保健費の審査を終わります。

次に、目3学校給食費について御審査願います。学校給食費は、132ページから135ページです。

（目3学校給食費） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、目3学校給食費の審査を終わります。

次に、134ページの目4体育振興費について御審査願います。

（目4体育振興費）

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

吉井委員。

○吉井詩子委員

すみません、この大事業1、生涯スポーツ推進事業の中の中事業8、インクルーシブスポーツ推進事業、これ重点事業で上げていただいていますので、お聞きいたしたいと思います。このスポーツを通してインクルーシブというこのことを広げるということに関して、どういう意義があるかということをお聞かせ願いたいと思います。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

インクルーシブですけれども、まず、スポーツの振興を図る上で、生涯スポーツであったりいろいろな形で取組をさせていただいていますが、その中でやはり障がい者の方が特に参加できる機会というのが少なかったということがあります。そういった中で、障がいのある方を含めて、また健常者の皆さんと一緒に同じ場でスポーツができる、そういうことが共生社会の実現、スポーツの分野においても確立できるのではないかとということで取り組んでおるところでございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

今、障がいのある方ということでは、高齢者の方であったり、また外国人であったりとか様々な方が一緒にやれるスポーツというふうに分かりました。いろんなスポーツが開発されているようなんですが、ニュースポーツというののもあって、それとかいろんなあるんですね、何かユニバーサルスポーツとか、その辺の言葉の違いと言いますか、それとそのいろんなスポーツ、どのように理解したらよろしいでしょうか。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

よくニュースポーツという話が出てきます。ここにつきましては、例えば昔ちょっと前で言うとキンボールであったりとか、いろいろ新たに出てくるスポーツのことをニュースポーツということでは、このインクルーシブスポーツにおいては、ニュースポーツと言われるものであっても、例えばサッカーとかもともとあるスポーツもそうなんですけれども、そういうものをうまく活用して障がいのある方も、御高齢の方

も、そして子供も一緒になってそのものをやる、要はそれができるようなルールづくりをしながら活用していくというようなことで、スポーツ課としては考えております。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。ニューであっても、オールドであっても、みんなで一緒にやったらインクルーシブスポーツと言えるというようなことでいいのかなと思います。

そこで、今までいろいろな学生さんにお手伝いしてもらったりとか、様々な形でされておられますが、その成果についてお聞きしたいと思います。

◎宮崎誠会長
スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

インクルーシブスポーツの取組は、令和4年度から実施をさせていただいておまして、今委員仰せいただいたように、今年度から皇學館大学の学生さん、CLL活動のほうを活用させていただいて、CLL、今年度の中では最も多い20名の学生さんがこのインクルーシブスポーツの取組に参画をしていただきました。学生さん自らで企画・運営をいろいろしていただくことで、やはりそのインクルーシブスポーツの大切さを知っていただくとともに次世代育成、そういったところを図っていくということがまず1つと、それと昨年度実施した2回のイベントの1回平均が62.5名の参加がありました。62.5名の参加があったんですけれども、今年度はちょうど倍になるんですけれども、1回当たり、倍ですので125名ほどの参加があるということで、やはり地道ではありますけれども、いろいろな活動することによって、ちょっと参加者も増え、認知も少しずつ出てきているという成果があると思います。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。今回予算のほうも増額もさせていただいております。6月開催の第35回日本パラ陸上競技選手権大会においても啓発活動を行うということで、そのようなこともあって増額もされておると思うんですが、この中でいろいろな行事とかイベント、何か予定はあるのでしょうか。

◎宮崎誠会長
スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

パラスポーツのときということによろしいですか。パラスポーツのほうがこの6月に開催するようになっております。ある意味すごくいい機会だというふうに捉えておりますので、その大会の場所、そちらのほうでインクルーシブスポーツの啓発・普及、そういった取組ができるように、今主催者側とも検討しておるところですので、ぜひやっていきたいというふうに考えております。以上です。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。インクルーシブスポーツ、誰でも参加できるということなんですが、そのように工夫をしていただいても、それでも参加できないという方もあると思うんです。そのことなどを考えますと、そのスポーツとアートを組み合わせていくことによって、会場に来てスポーツに参加もしできなくても、そういうアートのことだったら参加できるというような方もあるのではないのかなと考えますので、その辺の工夫もしていただきたいと思いますが、いかがですか。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

非常に大事なことだと考えております。例えば、別の総合型地域スポーツクラブでも、スポーツだけに特化せずに、文化も入れていろいろな方が参加をしていただくというところにも一つ置いておりますけれども、目的として。そういう本当にあまり動かずにできるような文化的なものというのは非常に大事だと思っておりますので、そういう関係団体の方、あるいは庁内においても関係部署などとも連携をしながら、そういう多様なニーズに応えられるようなイベント、そういったものを実施していきたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

よろしく願いいたします。スポーツ課だけでなく、様々ないろいろな庁内の課と連携をしていただきまして、さらにこのインクルーシブの理解をしていただけるよう、ステップアップしていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

◎宮崎誠会長

暫時休憩します。

休憩 午後 0 時02分

再開 午後 0 時02分

◎宮崎誠会長

休憩を解き、会議を再開いたします。

ここで審査の途中であります。13時まで休憩とします。

休憩 午後 0 時03分

再開 午後 0 時56分

◎宮崎誠会長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、134ページの目 4 体育振興費について、継続して審査をお願いしたいと思います。

御発言はありませんか。

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

それでは、この体育振興費のところでもう少しお聞かせをいただきたいと思います。休憩前にもインクルーシブスポーツのところでも御質問ありました。まず、そこでもう少しお聞かせをいただきたいと思います。来年度からは、伊勢志摩定住自立圏の中でこのインクルーシブスポーツの推進をしていきたいということで、これまでも御説明をいただいております。来年度この概要書を見せていただきますと、インクルーシブスポーツフェスタ、またボッチャ交流大会を開催していきたいということでもありますけれども、その辺の目的等、教えてください。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

インクルーシブスポーツについてでございますけれども、先ほどもちょっとお話しさせてもらったように、令和4年度からこの取組を行う中で、市民への啓発をより広く、またより早く進めていくためには、伊勢市のみだけでなく、伊勢志摩定住自立圏域の市町とともに啓発していくことが重要であると考えたためでございます。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。この伊勢志摩定住自立圏は、鳥羽、志摩、また度会郡、明和町とたくさ

んの市町に参加をしていただいていることになろうかと思えます。今回このインクルーシブスポーツフェスタ、またボッチャ交流大会をしていくということになると、相当な規模になっていくのかなと思えますけれども、どれぐらいの大会を予定しているのか教えてください。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

現在のところ、三重交通グループスポーツの杜伊勢体育館での開催を予定しております。ボッチャ交流大会でございますけれども、今年度は定数の30チームに参加をしていただきましたけれども、令和6年度は定数を50から60チームに増やし、体育館のほうで開催したいと現在のところ考えております。

なお、同会場もしくはその周辺の施設、そういったところも利用いたしまして、インクルーシブスポーツフェスタも同時開催をし、全体的には1,000人規模のイベントにしたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。1,000人規模ということで、大変大きな事業をしていただくんだというふうに認識をさせていただきました。それだけの大きな大会を計画するとなると、やはりいろいろと周知も必要かと思えます。その辺の周知方法、またいろいろとその辺考えていただけることを教えていただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

周知についてでございますけれども、伊勢市のみだけでなく、圏域内の市町に対して広報紙であったり、ホームページへの掲載及びチラシの配付など、広報活動の協力を求めているというふうに考えております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

ありがとうございます。構成市町のほうも一緒になってこの事業を盛り上げていただけたらと思えますけれども、やはりこれだけの規模になりますと、スタッフも必要かと思

ます。いろんなところからも応援いただいたりする必要もあろうかと思えますけれども、その辺はどのように考えているのかを教えてください。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

伊勢市パラスポーツ協会や伊勢市スポーツ推進員、また今年度からインクルーシブスポーツ活動と一緒に取り組んでいただいております皇學館大学C L L活動の学生の皆さん、その他関係団体に引き続き協力をお願いするとともに、こちらのほうも圏内の市町の担当職員であったり、スポーツ推進員の皆さんにも御協力を求めているというふうを考えております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

ありがとうございます。大変楽しそうなイベントになろうかと思えますので、ぜひ参加もしたいなというふうに思います。

それでは、続いて一番最後になります集客誘致大会の開催事業ということで、一番最後にありますお伊勢さんマラソンにつきまして、少しお尋ねをさせていただきます。令和5年については、12月の最初の土曜日、日曜日に開催をしていただきました。募集においては、なかなか何度も追加募集をしていただくということで、昔はコロナ前は本当に5キロなんかは2時間でもうすぐいっぱいになるなんていうこともありましたけれども、今回なかなか定員に満たないということで、何度も追加募集をしていただきました。

1つ原因として考えられるのが、松阪マラソン、フルマラソンの松阪の大会がほぼ同時期に開催される形になってきたということで、令和5年度においては2週間後の開催が松阪であったと。今もネットでは令和6年の予定も出ておりますけれども、伊勢の大会のほうは12月7、8、お伊勢さんマラソンの予定ということで、ホームページ等でも見せていただいています。松阪マラソンにおいては、次の翌週の12月15日に開催ということで、参加者においては、結構近隣の方も、遠いところの方もおりますけれども、やはりそのほぼ同時期にバッティングしているところから取り合いになってきているのではないかというふうに思います。その辺、募集に大変心配をするところでありまして、その辺どのような形で考えているのか教えていただきたいと思えます。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

マラソンの参加者については、まず全体的にもコロナの影響というのもありまして、全

国的に参加者が減少していると認識しております。また、委員仰せのとおり、松阪マラソンの影響も少なからずあると考えております。そのことから、お伊勢さんマラソンのほうをさらに魅力を高めていくということで、新たな取組を現在検討しておるところでございます。できればというか、もう令和6年度の大会には実施したいと考えておりますので、そこら辺を実現できるように進めていきたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長
吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

ぜひ協会等の方であったりとかいろいろな関係団体の方ともいろいろ相談をいただきながら、また企画をしっかり練っていただいて楽しいマラソン大会にさせていただけたらと思います。今年度の大会についても、私も参加させていただいて、いろいろと工夫やら、改善やら、いろいろとしていただいてありました。中には、走っている途中でドーナツ配っていただいて、私も途中、食べながら走らせていただいたんですけども、結構ごみ箱がそこになかったりとか、いろいろとほかにも改善点いろいろもうちょっと考えたほうがよかったかなというところは考えたりもしましたけれども、その辺考えているところがあれば、もう少し最後に教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長
スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

昨年12月の大会、初めて新たな企画としてエイドステーションを設けさせていただいて、そこでドーナツの振る舞いをさせていただきました。今、委員御指摘がありましたように、エイドステーション等を含めて、あと全4か所の給水所とゴール地点にもエコステーション、ごみ箱のほうは設置をさせていただいておりますけれども、そのドーナツを配付させていただいておりますエイドステーションから次のエコステーション、ごみ箱のあるところまでがかなり距離がありましたので、その間そのごみを持って走るランナーの方もみえたと伺っておりますので、その改善に向けて検討してまいりたいと考えております。

◎宮崎誠会長
吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

ありがとうございます。また、実行委員会等のほうでいろいろと皆さんで協議をさせていただいて、楽しい大会にさせていただけたらと思います。

また、この体育振興費ということでお伺いしますけれども、令和6年度はこのパリオリンピックのオリンピックイヤーになります。特に、今回何がというふうなあれはないんですけども、現在のところ、バドミントン男子の西本拳太選手が、今オリンピック候補選

手ということで聞いておりますけれども、それ以外の選手候補等は、今スポーツ課、また教育委員会等に入っているところというのはあるのでしょうか。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

現在のところですが、西本選手以外の情報は持っていません。西本拳太選手の情報のみということになります。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました、ありがとうございます。現在、日本人選手の2位ということですので、このままランキングをキープすればオリンピック選手になれるのかなと思います。もし選手になったら、いろんなパブリックビューイング等、いろいろと計画していただけたらなんて思います。

令和6年度、これ以外にもU18・16のジュニアオリンピックの陸上大会もありますし、大変お忙しい1年になるのではないかなと思いますけれども、大いにスポーツを盛り上げていただいて、伊勢市を元気にしていただけたらというふうに思います。ありがとうございました。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

大西委員。

○大西要一委員

私も、体育振興費の中の2番、大事業2、競技スポーツ推進事業、中事業2の競技スポーツ推進事業でお教えいただきたいと思います。概要書によりますと、子供から大人までスポーツ技術の向上や拡大を図るため、各種大会や教室を開催するほか、指導者や審判の育成を図っている伊勢市スポーツ協会を支援するとございます。概要書からでは分かりにくい部分はあります。令和6年度予算については、1,000万円ほど増額されております。この理由が何か、まず教えていただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

増額の理由でございますけれども、令和6年度に三重交通グループスポーツの杜伊勢陸

上競技場におきまして、U18・U16陸上競技大会及び2024日本パラ陸上選手権大会が開催されますことから、その一部を補助するものでございます。

◎宮崎誠会長
大西委員。

○大西要一委員

先ほど吉岡委員のほうからも御紹介のありましたジュニアオリンピック、U18・U16の陸上競技大会、それと日本パラ陸上選手権大会、こちらへの補助をされるということでございます。私あまり詳しく知りませんので、どのような大会なのか、もう少し詳しく教えていただきたいと思っております。

◎宮崎誠会長
スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

大会の内容でございます。U18・U16陸上競技大会につきましては、日本の中学生と高校生のトップの方が集う陸上競技大会で、10月18日金曜日から20日の日曜日までの3日間開催されます。なお、この大会につきましては、令和6年度から令和8年度までの3年間、伊勢市で開催される予定となっております。

また、2024日本パラ陸上選手権大会につきましては、パラ陸上の最高峰の大会であり、日本のトップ選手が集う陸上競技大会で、6月8日土曜日、9日日曜日の2日間開催されるということになっております。また、この大会につきましては、今年開催されますパリパラリンピックの最終選考会を兼ねた大会となっております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
大西委員。

○大西要一委員

丁寧な御説明をいただきました。かなり大きな大会だということが分かりました。この大会でどれぐらいの方に会場に訪れてもらうのか、その辺ちょっと教えてください。

◎宮崎誠会長
スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

U18・U16のほうにつきましては、出場選手が約2,000名で、選手、監督、コーチ、競技役員、保護者、観客等で大会期間中、延べ1万8,500名の来場が予想されております。

また、日本パラ陸上のほうでございますが、こちらは出場選手が2日間で延べ400名となる見込みでございます。

◎宮崎誠会長
大西委員。

○大西要一委員

U18・U16の陸上競技大会のほうにつきましては、3日間で1万8,500人ということで、単純に考えると1日6,000人以上が来られるという大きな大会ということが分かりました。これだけ来ていただく状況ではあるんですが、想定されておるんですが、宿泊の状況についてお分かりでしたら教えていただきたいと思います。

◎宮崎誠会長
スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

宿泊については、見込みとなりますけれども、これは両方の大会を含めて約1万4,000泊というふうに想定をしております。

◎宮崎誠会長
大西委員。

○大西要一委員

1万4,000泊ぐらいされるということで、多くの方が宿泊、滞在されるということになります。おのずと経済効果というのも期待させてもらいたいんですけども、そのほかに経済効果以外にどのような効果を期待されているかお教えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長
スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

スポーツ課といたしましては、伊勢市の子供たちがトップレベルの選手の競技を間近で見させていただくことで刺激を受け、競技力向上につながればというふうに考えております。

◎宮崎誠会長
大西委員。

○大西要一委員

じかに見られる機会という貴重な機会やというふうに思います。次に、U18・U16陸上競技大会、これ特に多くの方が伊勢の競技場へ来られるということになります。しかも土日も含んでおるという状況でございます。周辺の駐車場など混雑するんじゃないかなというふうに思うんですけども、開催に当たってその辺の対策等を考えられているのでしょ

うか。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

委員仰せのとおり、この大規模な大会ということで、参加者や観客などの駐車場の確保であったり、観光客との共存あるいは安全確保、こういったところは課題の一つであるというふうに認識をしております。この件につきましては、主催者であります日本陸上競技連盟や、主管の三重陸上競技協会、また交通政策課や関係機関とも連携をしながら対策をしていきたいというふうに思います。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

関係機関の方としっかり連携をお願いしたいと思います。最後に、この大会が伊勢で開催されるということになります。市民の皆さんがもう何も知らない状況というのもどうかと思いますので、スポーツ課としてPR、周知どのように考えておられるのかお教えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

周知でございますけれども、広報いせや市のホームページ、SNSへの掲載、また各小・中学校や高校、市営施設へのポスターの掲示など可能な限りの広報を行っていききたいというふうに考えております。

また、スポーツ協会やスポーツ少年団などの様々なスポーツ団体にも幅広く広報していきたいと思います。以上でございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

PRのほうしっかりしていただいて、皆さんに関心を持っていただければというふうに思います。聞かせていただいて、確かに経済効果も見込める大きな大会だというふうに分かりました。伊勢ならではの大会というふうな形で成功裏に終わられますよう頑張っていたきたいと思います。ありがとうございました。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、目4 体育振興費の審査を終わります。

次に、目5 体育施設費について御審査願います。体育施設費は、134ページから137ページです。

(目5 体育施設費)

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

それでは、体育施設費のほうで少しお聞かせをいただきます。概要書の79ページには、この内容につきましていろいろと記載をしていただいておりますのが、体育施設管理運営事業の中の(3) 体育施設通信環境整備事業についてお聞きします。いろいろスポーツ施設におきましてW i - F i 環境を整備したいということで、今回このような形で新しくダイムスタジアム伊勢、また市営庭球場、テニスコート、三重電子スマイルアリーナ小俣、御薊B & G海洋センター、そして、また伊勢フットボールヴィレッジにあるところを強化したい、増強したいということで予算を見積っていただいております。そこのまずは接続方法どのような形で考えているのか、その辺教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

接続方法についてでございますけれども、こちらのほう現時点では利用者がI Dとパスワードを直接入力する方法で考えておりますが、利用者の利便性やセキュリティー対策など総合的に勘案をして検討したいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

基本的には大会であったり、何か大きなイベントがあったときに使えるというふうな感じでもよかったですでしょうか。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

大会やそういったものがあつたということに限らず、基本的には使えるような状況にはしていきたいというふうに思います。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

先ほど接続方法と、今使い方について教えていただいたんですけども、そのIDであったりパスワード、そういった公開の方法というのはどのように考えているのか教えてください。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

ID、パスワードの公開方法でございます。これ県内のスポーツ施設のほうも調査をさせていただいておりますけれども、その状況を見ますと、管理事務所の窓口であったり、施設内のアクセスポイントなどにID、パスワードを掲示しているところが大半であります。スポーツ課といたしましては、施設ごとに利用者の利便性を考慮した上でID、パスワードの公開方法を考えていきたいというふうに思います。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。そうすると、基本的には施設の中にそういったものが掲示されているということで、例えば駐車場で全然関係ない人がWi-Fiをやつとるわとか、何かいっぱい知らん車が止まつとるわと、基本的にはそういうことはないと考えておいてよろしいんでしょうか。その辺の対策何か考えていることがあれば教えてください。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

そちらについてなんですけれども、専門業者さんのほうに聞きますと、Wi-Fi機器が見通せる環境であれば接続の範囲というのは半径20メートル程度というふうに伺ってお

ります。それによりますと、施設によっては駐車場に止めてW i - F i が使用できる場合があるというふうに思います。その対策といたしましては、まずはやはり施設管理者が駐車場などを巡回して、そういう注意を促していくようなことをやっていくというのがまず1つだと思います。また、施設が利用できない夜間などでございますけれども、W i - F i 機器にタイマー機能を設けることによって接続をオフにすることも可能でございますので、このあたりについては、今後の運用について内部で検討したいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長
吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

いろいろと大会の実施であったりとか、その情報発信であったりということを考えると、いいことだとは思いますが、中にはそういう例えば試合の休憩中に車でちょっと休憩しながらそれを何かを見るとか、また次の試合の何か組合せが新しくアップされているのを見るとかそういう形であればいいとは思いますが、何か違う人がおるよという形で駐車場使えへんよというふうなことがあるとちょっと違うのかなと思いますので、またその辺はいろいろと考えながらやっていただけたらと思います。以上です。ありがとうございました。

◎宮崎誠会長
他に御発言はありますか。
野崎委員。

○野崎隆太委員

同じところで幾つかお尋ねをさせていただければと思います。先ほど御答弁の中では、W i - F i が20メートルがどうのというような話があったと思います。それで、この予算説明資料、度々出していますけれども、これの中でもW i - F i の利用対象者として施設を利用する観客、それから大会運営者（報道）という形で記載があります。W i - F i の整備をすること自体は、僕は反対を当然しませんし、いいことかなとも思うのですが、他方でちょっと競技によっては、ここに書かれていることがちょっと想像ができないような状況があるんじゃないかなと思います。

というのも、例えば書かれているフットボールヴィレッジなんかですと、野球であればセカンドで守りながらW i - F i を使うということはちょっと想像がしづらいのですが、フットボールヴィレッジ御存じの方だったら、みんな当然分かると思うのですが、例えば少年部のコートを半分にしてやるようなサッカーの状況だと、フットボールヴィレッジのCピッチ、あのでかいところの真ん中に多分ベンチがあるんですね。なんで、ベンチの例えば監督であるとか大会以外のときに使っているときに、ひょっとすると、そこW i - F i 届いていないんじゃないかとかいうようなことが、ぱっと施設を想像するとちょっと僕は予想ができるのですが、整備の計画の中で、大会の運営者とか観客と

いう形で記載があるんですけども、大会じゃない使い方をするときのほうが実際は多いんじゃないかと思って、そのあたりはどんなふうにお考えでしょうか。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

まず、今回の整備のほうにつきましては、他の県内の各市の状況も調べさせていただきながら、要望が多かった観客であるとか大会運営者、そういった方が利用しやすい場所を中心に設置を考えております。そうした中で、今のいう利用者の方も、今のいう飛ばない場所というのが出てくるかと思うんですけども、今の現状の中では、その一定の場所で使えるところがあるので、そこで利用していただくということで今のところは御理解していただきたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

僕が理解するのは、それでもいいと思うんですよ。けども、実際使う人がコートの中歩いていたらWi-Fiが切れましたというような事例がたくさんこれから出てくるのが、想像がもう今の時点でできる中で理解をそれでしろと言われても、それは事業としてもうちょっとやりようがあるんじゃないのとか、事前に計算ができるんじゃないのという部分じゃないかと僕は思います。

例えば、ここでさっきの中で上がっている中では、三重電子スマイルアリーナ小俣なんかであれば、大体どこでも建物の中通じるかなというのが想像ができるんですけども、さっき言ったように、逆に外だと恐らくこれは切れるとか、使えないとか、観客と書いてありますけれども、C・Dピッチの一番端っこまでじゃあWi-Fiが飛ぶのかとかいうことを考えていくと、何か書いてあることと実際違ったりだとか、これで満足するような事業になるのかというのにちょっと僕は疑問があるんですけども、そのあたりやっぱり一番の利用者は施設を借りている人だという、それは運営者は借りている人ですけども、というのはぜひ認識をしていただいて、特にフットボールヴィレッジに関する話に多分これなんですけれども、野球場やったら、まだ建物からそんなに遠くないのですぐつけるでしょうけれども、ちょっとこのフットボールヴィレッジに関しては、事業の構築の中なるべく丁寧に事業者からも聞き取りをして、実際に利用するときには不便がない形を設計するべきだと思うんですけども、いかがですか。

◎宮崎誠会長

スポーツ課長。

●東浦スポーツ課長

委員仰せのとおり、やはり利用者の視点に立った環境整備というのは必要になるかと思
います。今後、今おっしゃっていただいたように、特にもう利用者の方の聞き取りという
ところも積極的にさせていただきながら、状況も見させていただいて、今後総合的に検討
して考えていきたいというふうに思います。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

もうこれ以上は言いませんけれども、当然機器の限界もあれば、予算の限界もある中で、
いろんな努力をしてより使いやすい施設をというふうにしていただいていること自体は理
解しておりますので、その中でちょっと懸念点があるのではないかということだけお伝
えさせていただいて、いろんな形で進めていただければと思いますので、以上でございま
す。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、目5体育施設費の審査を終わります。

以上で、款11教育費の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、138ページをお開きください。

款12災害復旧費の審査に入ります。

当分科会の所管は、項3文教施設災害復旧費です。文教施設災害復旧費は、138ページ
から141ページです。

【款12災害復旧費】《項3文教施設災害復旧費》 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、款12災害復旧費の当分科会関係分の審査を終わります。

以上で歳出の審査を終わります。

続いて、歳入の審査に入ります。

18ページへお戻りください。

款15分担金及び負担金を御審査願います。

当分科会の所管は、項1負担金のうち、目1民生費負担金及び目2衛生費負担金です。

【款15分担金及び負担金】《項1負担金》（目1民生費負担金）（目2衛生費負担金）

発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、款15分担金及び負担金の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、款16使用料及び手数料を御審査願います。

当分科会の所管は、項1使用料のうち、目2民生使用料、目3衛生使用料、目8教育使用料及び20ページの項2手数料のうち、目2衛生手数料です。

【款16使用料及び手数料】《項1使用料》（目2民生使用料）（目3衛生使用料）（目8教育使用料）《項2手数料》（目2衛生手数料） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、款16使用料及び手数料の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、20ページの款17国庫支出金を御審査願います。

当分科会の所管は、項1国庫負担金、22ページ、項2国庫補助金のうち、目2民生費国庫補助金、目3衛生費国庫補助金、24ページ、目7教育費国庫補助金及び項3委託金のうち、目2民生費委託金です。

【款17国庫支出金】《項1国庫負担金》《項2国庫補助金》（目2民生費国庫補助金）（目3衛生費国庫補助金）（目7教育費国庫補助金）《項3委託金》（目2民生費委託金） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、款17国庫支出金の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、24ページの款18県支出金を御審査願います。

当分科会の所管は、項1県負担金のうち、目2民生費県負担金、26ページ、目3衛生費県負担金、項2県補助金のうち、目2民生費県補助金、目3衛生費県補助金、28ページ、目9教育費県補助金及び項3委託金のうち、目2民生費委託金となります。

【款18県支出金】《項1県負担金》（目2民生費県負担金）（目3衛生費県負担金）《項2県補助金》（目2民生費県補助金）（目3衛生費県補助金）（目9教育費県補助金）《項3委託金》（目2民生費委託金） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、款18県支出金の当分科会関係分の審査を終わります。

次に、30ページをお開きください。

款20寄附金を御審査願います。

当分科会の所管は、項1寄附金のうち、目3民生費寄附金です。

【款20寄附金】《項1寄附金》（目3民生費寄附金） 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、款20寄附金の当分科会関係分の審査を終わります。
次に、款21繰入金を御審査願います。

当分科会の所管は、項1基金繰入金のうち、目4地域福祉基金繰入金、目5育英基金繰入金及び32ページの項2特別会計繰入金です。

**【款21繰入金】《項1基金繰入金》（目4地域福祉基金繰入金）（目5育英基金繰入金）
《項2特別会計繰入金》 発言なし**

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、款21繰入金の当分科会関係分の審査を終わります。
次に、32ページの款23諸収入を御審査願います。

当分科会の所管は、項3貸付金元利収入のうち、目1民生貸付金元利収入、目4教育貸付金元利収入、目5災害援助資金貸付金元利収入及び項5雑入のうち、34ページ、目4民生費収入、36ページ、目5衛生費収入、38ページ、目12教育費収入です。

【款23諸収入】《項3貸付金元利収入》（目1民生貸付金元利収入）（目4教育貸付金元利収入）（目5災害援助資金貸付金元利収入）《項5雑入》（目4民生費収入）（目5衛生費収入）（目12教育費収入）

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。
吉井委員。

○吉井詩子委員

すみません、項5雑入の目4民生費収入の生活保護の関係についてお聞きをいたします。生活保護法第63条返還金、それから78条徴収金とあります。昨年よりこの徴収金のほうが100万円多く見込んでいるんですが、この最近の状況について教えてください。

◎宮崎誠会長

生活支援課長。

●濱口生活支援課長

吉井委員にお答えします。78条徴収金につきましては、昨年度は500万円余の予算を上げさせていただきましたが、今年度は600万円余の予算を計上させていただいています。このあたりについては、例年決算において500万円半ば頃の決算額があることから、今年度は600万円程度の担当のちょっと意欲も含めて600万円程度に上げさせていただいていると

ころです。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

今担当の方の意欲も含めてというふうにお聞きをいたしました。この78条に関しましては、不実の申請、その他不正な手段により保護を受け、または他人をして受けさせたものというふうにあります、法律上で。今後、今意欲もあるとおっしゃったんですが、この不正受給についてどのように取り組まれるのか教えてください。

◎宮崎誠会長

生活支援課長。

●濱口生活支援課長

不正受給につきましては、給与を隠していたり、年金を受け取っていても隠したりというような状況が見受けられるところもありますので、このあたりについては、厳正な対処をしていくようにさせていただきたいと考えております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

ありがとうございます。生活保護は最低生活の維持のための給付ですので、必要な方が本当にきちんと申請することができるように、この不正受給について厳しく対処していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、款23諸収入の当分科会関係分の審査を終わります。

以上で歳入の審査を終わり、議案第2号中、当分科会関係分の審査を終わります。

次に、一般会計中、当分科会関係分の自由討議を行います。御発言はありませんか。

【一般会計の自由討議】 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、自由討議を終わります。

次に、特別会計の審査に入ります。

159ページをお開きください。

「議案第3号 令和6年度伊勢市国民健康保険特別会計予算」を御審査願います。
この議案の審査については、一括で御審査願います。

☆議案第3号 令和6年度伊勢市国民健康保険特別会計予算

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

大西委員。

○大西要一委員

一括ということです。保健事業について教えていただきたいと思います。健康な生活や医療費の抑制のためにも、病気の早期発見、早期治療を図るため、健診事業などは重要と思います。特に、特定健診はメタボリックシンドロームに着目した健診で、日本人の死亡原因の6割を占めるという生活習慣病の予防と早期発見を目的とされております。特定健診のリスクが発見された場合には、生活習慣病などを改善する特定保健指導へつなげられているというふうに思っております。そこで、特定健診について、受診率は県内で上位に位置しているということをお聞きしたことがございます。現在どのような状況になっているのかお教えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

特定健診の受診率等ということでございますけれども、令和4年度につきましては、40歳から74歳の対象者1万8,646人に対して実施いたしまして1万194人が受診し、54.7%の受診率になっております。県内の順位でございますが、29市町の中で2番目、14市の中では1番目となっております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

御紹介いただいて、県下で上位2番目ということでございました。順位も大切なんです、受診率が54.7%ということでございました。目標値として何%を想定されているのか、令和6年度としてはどれくらいの率を目指しているのかお教えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

この受診率でございますけれども、特定健康診査実施計画により、目標値を令和11年度に60%としております。令和6年度につきましては、55%を目指しております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

令和11年度、60%を目指すということでございます。受診を促すためには、PR、お知らせが大切かというふうに思います。対象者の方にどのように周知をされているのか教えてください。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

特定健診の受診券につきましては、例年6月下旬に送付しております。周知につきましては、広報いせ、ホームページ等々、市の媒体を使ってしておりますが、また窓口におきましても、啓発用の物品配付による周知も行っておるところでございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

6月下旬に受診券、それを送付されておるということでございますし、広報もしっかりされているということでございます。ただ、近年先ほどの数値では54.7%、55%ぐらいが受診率で、停滞しているんじゃないかなというふうに思います。目標を掲げておられて、目標に向けて何か工夫をされているようなことを考えられておりましたら、お教えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

対策ということでございますけれども、これまでも10月に当該年度の未受診者に対しまして受診勧奨の通知の送付や、前年度の未受診者に対しましては、コールセンターなどによる受診勧奨を実施するなど、受診率の向上に努めてまいりました。

さらに、若い世代ほど受診率が低いことから、その世代、あるいはまた過去3年間受診状況に応じて受けていない方について受診勧奨通知の案内の内容を変える工夫や、また8月にはLINE、フェイスブックなどSNSを利用した受診勧奨を行い、気づきを取り入れた取組も行ってまいっております。また、人間ドックや事業主の健診等の健診を受けている場合には、健診結果を持って特定健診を受診したとのカウントをすることができることから、健診結果を提供していただけるような啓発活動や、人間ドック等の助成金の交付を行っているところでございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

SNSを利用したり、若い世代の方を対象に周知も考えられとるということでございます。時代に合った周知方法も検討いただければと思います。

次に、特定保健指導、これはどのようにされているのかお教えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

暫時休憩します。

休憩 午後1時41分

再開 午後1時41分

◎宮崎誠会長

休憩を解き、会議を再開いたします。

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

特定保健指導につきましては、特定健康診査の結果から、生活習慣病リスクがある方へ生活習慣の改善を促して健康維持を図ることを目的とし、保健師等で動機づけ支援と積極的支援の個別指導を実施しているところでございます。実施率向上を図るため、特定保健指導対象者に電話等による利用勧奨を行っているところでございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

そこで指導を受けられた結果、食生活や運動習慣、こちらへも改善が繋がったという方はどれぐらいあるのか、お教えいただきたいと思います。

◎宮崎誠会長
医療保険課長。

●世古口医療保険課長
保健指導を受けていただいた方の改善結果ということでございますけれども、腹囲で約3割、体重で約5割の方が改善したとの結果が出ております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
大西委員。

○大西要一委員
メタボ対策としても結果が出ているようでございます。さらに結果が出るようお願いいたしたいと思っております。指導はどれぐらいの方が受けておられるのか、指導の実施率は何%を目標にされているのか、お教えいただきたいと思っております。

◎宮崎誠会長
医療保険課長。

●世古口医療保険課長
特定保健指導ということでございますが、令和4年度ですが、849人の方に通知を送らせていただいて、284人の方に指導を受けていただいております。率にして33.5%になっております。目標は、これも令和11年度で60%としておりまして、令和6年度の目標は40%としております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
大西委員。

○大西要一委員
849人で、そのうち284人の方が受けられておるということでございます。令和6年度の目標も40%というふうにお教えいただきました。健康な生活や医療費の抑制のため、特定健診、特定保健指導などについて、今後の取組に何か考えがあればお教えいただきたいと思っております。

◎宮崎誠会長
医療保険課長。

●世古口医療保険課長
それぞれ目標のパーセンテージには届いていないところでございます。今後は新たな取組といたしまして、特定健診は受診率の低い層を対象を絞った受診の再勧奨や、先ほども申し上げましたけれども、SNSを使ってさらなる効果的な活用方法を検討して啓発活動

を行ってまいりたいというふうに考えております。

また、特定保健指導につきましては、近年、新型コロナウイルス感染症の影響で直接訪問がなかなか実施できない時期がございましたけれども、実施率の向上を目指しまして、直接訪問や相談会の開催とともに、通知文の改善や保健指導を受けた方への健康グッズの充実、相談会のネット予約、ICTの活用などに取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

大西委員。

○大西要一委員

生活習慣病は、バランスの取れた食生活、適度な運動習慣を身につけることにより予防が可能であるとお聞きしております。さらなる取組をしていただき、これからも医療費の削減に努めていただきたいと思います。伊勢市の国民健康保険が安定して運営できるようにお願いをいたします。ありがとうございました。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

それでは、この国民健康保険の保険証の発行につきまして、少しお聞かせをいただけたらと思います。マイナンバーカードが保険証として利用が始まったのが、令和3年10月20日からというふうに聞いております。私もまだマイナンバーカードを保険証として使ったことはないんですけども、近いうちに使いたいなと思っております。この令和6年度におきましては、国民健康保険証の発行が最後になるのかなと思いますけれども、この伊勢市の国民健康保険証については、7月31日までが今の保険証で、8月1日から新しい保険証になるかと思っております。これが最後になるかと思っておりますが、それがいつまで使えるのか、その辺の仕組みについて少し教えてください。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

委員仰せのとおり、最後の一斉更新となるのが令和6年8月1日発行の保険証でございます。今の保険証が使えるのが、その令和6年8月1日からその後、随時発行いたします。令和6年12月1日までに発行した保険証は、有効期限である令和7年7月31日までお使いいただけることとなります。以上でございます。

◎宮崎誠会長
吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。令和7年7月31日までは使えるということで聞かせていただきました。また、マイナンバーカードを持っている方はそれを使っていただいてもということになるかと思えますけれども、持っていない方も2割程度いらっしゃるとは聞いております。また、その場合には資格確認証の発行が必要ということかと思えますけれども、この自治体の皆さんの手間が大変いろいろ増えるのではないかなと思えますけれども、その辺増えていくのか、減っていくのか、その辺事務としてどのような形になっていくのか教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長
医療保険課長。

●世古口医療保険課長

資格確認証の交付ということになりますけれども、資格確認証につきましては、これまでの保険証と同様に、有効期限到来前に対象者へ一斉更新をいたします。マイナ保険証が利用できない方及び希望者のみの発送となるため、希望者の数にもよりますが、これまでより送付件数は半数以上減るのではないかなというふうに見込んでおります。

一方、資格確認証の対象者の判定、希望者の取りまとめなど新たな事務も発生いたします。現時点では、事務量がどの程度増えるのか不明でございますが、今後、国からの通知に沿って適切に対応してまいりたいと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

ありがとうございます。いろいろと確認作業等も必要になってくるということで大変かと思えますが、国のほうからいろんな案内があると思えますので、それに沿ってよろしくお願ひしたいと思えます。

もう一つ、国民健康保険料がお支払いいただけていないという方については、マイナ保険証、これも当然使えなくなっていくのかなと思えますけれども、その辺もう少し教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長
医療保険課長。

●世古口医療保険課長

委員仰せの未納の場合、使えなくなるのかということでございますけれども、直ちに使

えなくなるというわけではございません。健康保険料が未納の場合でも、マイナンバー保険証は使っていただくことができます。ただし、災害や病気など特別な事情がないにもかかわらず、保険料を滞納している世帯には、特別療養費の支給に変更する旨の事前の通知書を交付することとされています。

なお、これまでと同様に、納付困難な方に対しましては、納付相談の中で丁寧に他の相談機関なども案内するなど対応してまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。市民の皆さんの中には、まだこれ厚生労働省からはっきりとしていないところもたくさんあるかと思えますけれども、今年度変わるんやなというふうなことは、いろんなニュースでは知っていただいとるかと思えます。しかしながら、この制度の周知等、丁寧に詳しくしていく必要があると思えますけれども、その辺お考えをお聞かせいただいて、最後の質問とします。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

市民の方への周知ということでございますけれども、これにつきましては、最後の一斉更新でございます令和6年度8月1日の保険証の更新時にリーフレットを同封させていただきたいと考えております。また、一斉更新以降にも窓口で手続をされる方おみえになると思えますけれども、随時リーフレットをお渡しし、加入者へ周知していくというふうに考えております。今後、厚生労働省と国からの通知を確認しながら、ホームページ、広報いせ等、市の媒体等で制度の周知に努めてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

副会長。

○楠木宏彦副会長

個々の加入者の保険料負担についてお伺いをしたいと思います。まず、基本的な数字としまして、国保の加入者の数、それからその加入世帯数について教えてください。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

直近の数字でございますけれども、令和6年度1月31日の時点で加入者数が2万3,405人、世帯数は1万5,895世帯でございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長

今、そのうちの所得のない方もいらっしゃると思うんですけれども、ある人のうちの年平均の所得はどれだけでしょうか。

◎宮崎誠会長
医療保険課長。

●世古口医療保険課長

所得がある人ということで、年の平均でございますけれども、令和5年度の当初賦課の時点で約173万4,000円でございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長

それじゃ、所得のない方はどれぐらいいらっしゃいますか。

◎宮崎誠会長
医療保険課長。

●世古口医療保険課長

これも令和5年度の当初賦課の時点でございますが、1万3,713人でございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長

2万3,405人のうち1万3,713人が所得がないと。これ6割近くの加入者が無所得なんですよね。さらに加入者の高齢化によって医療費が高くなっていると。これはやはり非常に所得が低い、あるいはない方々を中心とするようなこうゆう国保、まさに川口議員も一般質問で指摘しておりましたけれども、国保の構造的な問題があるというふうに考えます。

国の対応、あるいは国費の投入が求められるところだと強く感じております。

次に、国保料、今度この令和6年度、現年と比べてどのようになるでしょうか。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

令和6年度と令和5年度と比べてということと理解させていただきますが、令和6年度予算と令和5年度予算で比較いたしますと、保険料につきましては、1人当たり8,233円の増額となる見込みでございます。ただし、予算は見込額でございます。来年度6月の本算定時に改めて最新の所得等を基に算定いたしますことから、金額は変動してくるものと思われまますので、御理解お願いいたします。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

予算レベルで8,233円、現年度よりも高くなっていると。本算定によって、またさらにこれはどのようになるか、この上昇分が大きくなるか、小さくなるか、それは分かりませんが、今の予算の段階では8,233円上がっているということですが、このような保険料の加入者の年間所得に対する割合はどの程度になりますか。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

これにつきましても、令和5年度の当初賦課の時点でございますけれども、所得に対する保険料の割合約10%ということでございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

これほかの保険に比べても非常に負担率が高いので、さらにこの年間所得額が、先ほど言われたような173万4,000円、これを考えると、そのうちの20%が保険料になるわけですから、そういう方々の生活の状況をまさに察して余りあるんじゃないかと思えます。

財政調整基金について、本会議で川口議員が質問しておりましたけれども、令和6年度はそのうちの4億円を取り崩すということなんですけれども、それによって基金残高は幾らになるのか、これは答えていただいておりますけれども、もう一度改めて確認したいと思います。

◎宮崎誠会長
医療保険課長。

●世古口医療保険課長
令和6年度予算4億円ということでございますけれども、取り崩すと約6億8,000万円
ということでございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長
ありがとうございます。かなり減ってきているというふうなことで、ある意味、危機的
な状況もあるんだと思うんですけれども、ただ、今のお伺いしました保険料の負担がさら
に上がっていくというようなことについて、これは国保の構造的な問題に加えて、現在の
物価高騰という状況が非常に加入者の生活を直撃しているということなんだと思うんです
よね。保険料負担はもう既に限界に来ていると。何かほかに手段はなかったのかと思うん
ですけれども、多くの皆さん方から国保加入者の間では、払える国保料にしてくれと、こ
のような声を伺っているんですけれども、市としてはもう一つ踏み込むことができなかつた
のかな。そして、また国への要望を、先ほど申し上げたような国費の投入も含めてお願い
したいというようなことを、市からも国へ要望していただければいいかと思います。
ありがとうございます。

◎宮崎誠会長
他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長
他に御発言もないようでありますので、議案第3号の審査を終わります。
ここで14時10分まで休憩とします。

休憩 午後1時58分
再開 午後2時08分

◎宮崎誠会長
休憩前に引き続き、会議を再開いたします。
次に、185ページをお開きください。

「議案第4号 令和6年度伊勢市後期高齢者医療特別会計予算」を御審査願います。
この議案の審査についても、一括で御審査願います。

☆議案第4号 令和6年度伊勢市後期高齢者医療特別会計予算

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。
副会長。

○楠木宏彦副会長

この後期高齢者医療特別会計について伺います。一昨年、2020年ですけれども、10月から75歳以上の高齢者の医療窓口負担割合が1割から2割、つまり倍増されました。この2割負担の対象者は、全国で言うと370万人に上っております。1人当たり年間で5万円の負担増、給付削減になりました。伊勢市でこの後期高齢者保険加入者はどれだけいて、そして一昨年の2倍への負担増になった方はどの程度いらっしゃるのでしょうか。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

2割負担の制度創設時、令和4年10月でございますけれども、伊勢市の被保険者数は2万1,522人で、2割の保険証となった方につきましては3,941人、全体の中で18.3%ということでございます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

全体の5分の1近くの方が2割になったということなんですけれども、それはそれとして、この令和6年度の保険料、現在と比較してどの程度変わるのでしょうか。

◎宮崎誠会長

医療保険課長。

●世古口医療保険課長

令和6年度の保険料率でございますけれども、均等割が4万8,903円で、前年度比4,314円の増、所得割が9.82%で、前年度比0.3%の増となる予定でございます。1人当たりの平均年間保険料額でございますけれども、三重県の後期高齢者広域連合での試算でございますが7万7,141円となって…、失礼いたしました。所得割が9.82%で、前年度比0.8%の増となる予定でございます。1人当たりの平均年間保険料額でございますけれども、三重県後期高齢者広域連合での試算でございますけれども7万7,141円となり、前年度比6,502円の増となる予定でございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

この保険もやはり値上がりをするというようなことで、今非常に物価高で、しかも年金がどんどん引き下げられている中で、高齢者にこれ以上の負担をお願いするのはどうなのかなと思います。市長は笑子・幸齢ということで、幸せによわいを重ねるといふふうな、そういうまちを目指すといふふうに言っておられるんですけども、そういうまちの理念からしてもちょっと問題があるのかなと思います。以上です。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、議案第4号の審査を終わります。

次に、201ページをお開きください。

「議案第5号 令和6年度伊勢市介護保険特別会計予算」を御審査願います。

この議案の審査についても、一括で御審査願います。

☆議案第5号 令和6年度伊勢市介護保険特別会計予算

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

吉井委員。

○吉井詩子委員

214ページ、款3地域支援事業、項1地域支援事業費、目1介護予防・日常生活支援総合事業費、大事業2、介護予防・日常生活支援総合事業についてお聞きをいたします。

一般会計のほうの地域介護予防活動支援事業のほうで、集いの場への送迎などをするつきそい支援事業というのがあったんですが、これが今まで10万円、事業所さんというか、やってもらっとる団体さんのほうに10万円あったんですけども、令和5年から5万円になったということで、以前に一般質問のほうでも、やはり物価高騰の影響の中、またコロナ禍の中、一生懸命やっていただいているので、この影響などを考えると、この下げることにに関してどうかという質問もさせていただいたんですが、その後、こちらの総合事業のほうで何か手当てをしてもらっているとか、そういうことを考えていただいていますでしょうか。

◎宮崎誠会長

健康福祉部参事。

●小林健康福祉部参事

総合事業のほうの住民主体の伊勢市ちょこっとデイサービスというものが該当するのですが、御質問いただきましてから令和5年度活動されている方々の意見や実績のほうをお聞きし、検証を行ってきました。その結果として、地域で自主的に活動を続けている団体本体に向けて、令和6年度は10万円の増額予算を行いまして、80万円から90万円に補助金額のほうを増額しました。このことにより、より一層地域で活発に活動していただくとともに、新たに地域で集いの場を始めようという団体の支援をしていきたいと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

新たに活動をしていただく団体にも10万円増というかしていただいたということで、考えていただいたなということで感謝申し上げたいと思います。やはり、専門職の方がその力が必要だという方がたくさんいらっしゃると思います。本当に必要な人のところへその専門職の方の力を発揮していただくためには、やはり地域の方の力をお借りするということが大変重要なことになってくると思いますので、この辺の住民主体のこの集いの場でありますとか、このサービスに関してもっと広げていただきたいと思いますが、その辺の周知というか、広げるための工夫とかどのようにされますでしょうか。

◎宮崎誠会長

健康福祉部参事。

●小林健康福祉部参事

生活支援コーディネーター、地域活動支援員というものを各包括に配置させていただいておりますので、その者や、あと社会福祉協議会の地域福祉の担当の方々と今後も検討を進め、地域に入り込みながら、このような活動につながるようにしていきたいと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

よろしくお願いたします。

次に、目2包括的支援事業・任意事業費の中の大事業2、任意事業、中事業8、成年後見制度利用支援事業なんですけど、これは令和5年度よりも200万円ほど増額されていると思います。このことに関しましては、この事業の対象者に当たる方々の利用者の増があるということですのでよろしいでしょうか。

◎宮崎誠会長

高齢・障がい福祉課長。

●奥野高齢・障がい福祉課長

委員仰せのとおりでございます。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

ということは、この事業は高齢者で配偶者や4親等内の親族がいない者について、市長の権限による申立てを行うとともに、低所得の高齢者に係る申立てに要する経費でありますとか、また成年後見人の報酬の助成を行うということで、このことから、やはり身寄りのない方という方が増えているということが分かると思います。あと、この低所得の方も増えているということが分かりますので、この事業も通しまして総合的に支援のほうしていただきたいと思います。

次に、中事業11の認知症サポーター養成事業なんですが、この事業に関しては、もうかなり長い期間やっけていただいておりますが、最近の動向といたしましてはどのようなになっておりますでしょうか。

◎宮崎誠会長

健康福祉部参事。

●小林健康福祉部参事

令和5年度は54回の講座を開始し、1,195名の養成をさせていただいております。各地域包括に配置しました認知症地域支援推進員のほうが積極的なサポーター養成講座をしていただいている状況でございます。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。私、以前からこの認知症サポーター講座のステップアップということで、次の段階をいろいろと考えてほしいということで、いろいろ考えていただいて、いろんなことをされたと思うんですが、その辺についていかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

健康福祉部参事。

●小林健康福祉部参事

ステップアップ講座のほうも7回開催させていただきまして、そこからオレンジチームへつなげるような支援をさせていただいております。以上です。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。このステップアップ講座、さらに充実させていただいて、また成年後見のほうの法人後見の支援員のまた講座も、市民後見人の講座も受けていただけるような工夫をしていただきまして、より一層地域の力を高めていっていただきたいと思います。よろしく願いいたします。以上です。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

副会長。

○楠木宏彦副会長

伺います。まず、介護給付費準備基金、今どのような現状になっているのか、そして、今回のこれ3年間の計画になりますけれども、取崩し額がどのようになっているのか伺います。

◎宮崎誠会長

介護保険課長。

●森本介護保険課長

介護給付費準備基金についてですが、基金の残高は、今年度末で約9億円になる見込みであります。次期保険事業計画の3年間でこの基金を8億円取り崩して、基準月額570円の保険料の負担の軽減をする予定であります。令和6年度から令和8年度まで保険料については6,715円の予定であります。以上でございます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

今、金額も保険料がどのようになるのかということについても伺ったんですけれども、結局これも引上げになっているということになりますけれども、次に、総合事業で要支援の人が従来相当サービスを希望したときに、それを利用することはできるのでしょうか。

◎宮崎誠会長

健康福祉部参事。

●小林健康福祉部参事

要支援の方や総合事業対象者の方が従来の相当サービスを利用することはできます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

そうすると、恐らく生活支援会議にかけられるんだと思うんですけども、ここで抑制されるなんていうようなことを聞いたりすることもあるんですが、実態としてどうなんでしょうか。

◎宮崎誠会長

健康福祉部参事。

●小林健康福祉部参事

委員仰せの生活支援会議でございますが、この生活支援会議は、高齢者の介護予防と自立支援を目的に、高齢者個人の介護計画をケアマネジャーや利用予定事業者とともに、専門職の薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士、訪問看護師、第一層生活支援コーディネーターで検討し、よりよい支援を考えるものを目的としております。また、その中で把握した地域課題から、地域資源の開発や市の政策形成につながることを目的としておりまして、サービス利用を規制するものでは一切ございません。以上でございます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

ありがとうございます。そのようなものであることを望みたいと思います。訪問型サービスについて、その単価が基準緩和型サービス、これ報酬の単価、基準緩和型サービスAの報酬単価は、有資格者による従来相当サービスの報酬単価と比較してどの程度のものとして設定されているんでしょうか。

◎宮崎誠会長

介護保険課長。

●森本介護保険課長

報酬単価の比較ですが、総合事業の緩和された基準のサービスにつきましては、従来相

当サービスの報酬単価の85%を基本に設定しております。令和3年度からは、30分未満につきましては90%に上げさせていただきました。令和6年度の単価につきましては、現在検討しております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長

今85%とか90%という数をお聞きしたんですけれども、その有資格者が基準緩和型サービスを提供したとき、それは今言われたような額になるんですけれども、ただそのサービスを提供される方が有資格者の場合、従来相当サービスの報酬を支払うというようなことはできないのでしょうか。

◎宮崎誠会長
介護保険課長。

●森本介護保険課長

有資格者が暮らし応援サービスなど従事した場合の単価なんですけれども、報酬自体がサービスに沿った報酬単価となっておりますので、有資格者が家事援助などのサービスを提供したとしても、従来相当サービスの報酬を支払うことはできません。一応、国の基準の範囲内でさせていただいております。以上でございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長

そこなんですよね。基準緩和型サービスの単価は、従来相当サービスの単価の85%だと。ですから、その際に資格がある方がサービスをして100%はもらえないと。確かに、今言われたようなサービスに沿った報酬だというふうなことで、内容や時間は少ないんですけれども、だからといって、その専門的な力量を安く見積もるといふのはどうなのかなと思うんです。しかし、国の基準に沿ってやっているというふうなことですよね。ちょっとこのことについては、また後でお話ししたいと思います。

それから、次に、要支援サービス利用者のうち、訪問型従来相当サービス、それから基準を緩和したサービスA、住民主体によるサービスBの利用のそれぞれの割合はどの程度になっているのでしょうか。

◎宮崎誠会長
介護保険課長。

●森本介護保険課長

要支援サービス者の利用割合ですけれども、訪問介護相当サービスは67%、基準を緩和した暮らし応援サービスは29%、シルバー応援隊サービスは4%であります。以上でございます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

ありがとうございます。要支援サービスの利用者のうち、緩和型を利用している方29%いらっしゃるということなんですけれども、それでちょっとまた話変わりますけれども、訪問型サービス、それから伊勢市暮らし応援サービス、これ訪問型サービスA1に当たりますけれども、これに従事できるように、資格を有しない者がそのサービスに従事できると、そういうふうにする研修があります。これどうなっているのかと令和4年度の決算を調べてみますと、その年度内に6人の方がこの研修を受講していらっしゃる。それまでのトータルで市内には修了証交付者が81人いらっしゃるんですけれども、このうちどれだけの修了者がホームヘルプの仕事に従事しているのか。また、暮らし応援サービスのうち、有資格者になっているのはどれだけの割合になるのか、このことについて教えてください。

◎宮崎誠会長

介護保険課長。

●森本介護保険課長

暮らし応援サービスの研修は、平成28年度から実施をしております、雇用実績としては7名でございます。その後、有資格者が担っている割合については、ちょっと把握しておりません。以上でございます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

有資格者の割合を把握していないということなんですけれども、7名の方が雇用されているということなんですけれども、このような研修、今後も続けることになるんでしょうか。

◎宮崎誠会長

介護保険課長。

●森本介護保険課長

この研修の今後につきましては、平成28年度の事業開始後、平成30年度に国において内

容が似通った生活援助従事者研修が創設されたことで、本事業の必要性が低下したと判断させていただきまして、令和6年度以降は開催は行いません。以上でございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長
分かりました。次に、基準緩和型のサービスを提供している事業所、これはどれぐらいあるのでしょうか。

◎宮崎誠会長
介護保険課長。

●森本介護保険課長
基準緩和型を提供しているサービスの事業所ですけれども、訪問介護サービス事業所49事業所のうち19事業所であります。通所介護サービス事業所につきましては、65事業所のうち14事業所であります。以上でございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長
今の数字をパーセンテージにするとどのようになりますか。

◎宮崎誠会長
介護保険課長。

●森本介護保険課長
訪問介護サービス事業所につきましては、約22%になります。通所介護サービスにつきましては、22%になります。以上でございます。

◎宮崎誠会長
副会長。

○楠木宏彦副会長
ちょっと私、計算したけれども、訪問のほうは39%ですよ。

◎宮崎誠会長
介護保険課長。

●森本介護保険課長

すみません、間違いました、39%です。訂正させていただきます。すみません。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

全ての事業所の中で、訪問型39%、通所が22%と。なかなかこの基準緩和型に踏み切れないような事業所がかなりあるのではないかなということなんですけれども、そうしますと、やはり先ほど利用者のサービスについてお聞きしたんですけども、緩和型がやはり29%しか利用していないと、従来型は67%利用していると。実際としては、やはり緩和型よりも利用者のほうも従来相当型のサービスを利用しているということになると思うんですけれども、事業所自体も緩和型がなかなか増えてこないから、やっぱりそういうふうにならざるを得ないというようなことなのではないかなと思うんですね。だから、そういう意味では、緩和型をこれからさらにどう進めていくのか、それについて、一つの大きな課題になっているんじゃないかなと思います。

次に、今、介護事業所の職員数は、介護サービスをする方、募集しても応募がないと、あるいはホームヘルパーが足りない。実際ホームヘルプをお願いしても、この日に来てくださいと言うても、ちょっとその日はいないのでみたいなことで断られるケースも割とあるというふうにお聞きをしているんですけども、今のこのホームヘルパーが足りないんじゃないかという状況について、市としてどのように見ているんでしょうか。

◎宮崎誠会長

介護保険課長。

●森本介護保険課長

事業者アンケートにおきましても、職員不足、特にホームヘルパー不足という回答があり、不足しているという認識は持っております。市としましても、これまでは人材確保のため、初任者研修等の費用の助成事業を実施してきました。令和6年度からは、新たに介護支援専門員更新研修費用の助成事業も実施していく予定であります。

今年4月に、県に介護生産性向上支援センターが設置され、人材確保や生産向上のため支援を行うこととなっておりますので、県との連携を図り、適切な支援を今後行っていきたいと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

副会長。

○楠木宏彦副会長

やはり、なかなかその介護職員、あるいはホームヘルパーが足りないというようなことは、この仕事の魅力が十分に発信されていないというか、実態としてやっぱり厳しい状況

になっているということだと思っんですよね。だから、そこの処遇改善なんかをさらに進めてもらわなくてははいけませんし、本当に働きやすい職場というのをつくっていかなくちゃならないのかなと思います。

昨年5月に介護を含む関連諸法が改正されて、新しい方針が令和6年度から適用されることになっています。介護ロボットなどを含む新しいテクノロジーを搭載した機器などを導入することによって、生産性の向上に資する努力義務が課せられるようになるということになっています。介護報酬も先ほどまだ決まっていなかったと言われましたけれども、今後改定されるわけですが、ただ、今回のこの法律の改正では、介護職員の処遇改善については十分に踏み込むことなしに、生産性向上だけは前面に携えてきている、新しい技術の導入ということだけが前面に出ているというようなことがあって、やはりまだまだこの介護職場をどうするかということが非常に大きな課題が残るんっと思っんです。

このような方向で国は動いているわけですが、やはり介護という仕事は地域に密着した、その地域の中で一人一人の方をお世話しながら進めていく事業なので、やはりその地域にどういふふうに即したものにしていくなかなというのが大事だっと思っんですよね。その場合、国からの上からの指示にそのまま、もちろん法律は従わなくちゃいけないんだけれども、やっぱり今の体制が上からああしろ、こうしろと言っただけじゃなく、やはり地方自治という考えが非常に大事なのかなというふうに思っんです。市には、地方自治の本旨に基づいてこの仕事をさらに進めてもらいたいなっと思っんです。ありがとうございます。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、議案第5号の審査を終わります。

次に、特別会計中、当分科会関係分の自由討議を行いたいと思っますが、御発言はありませんか。

【特別会計の自由討議】 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、自由討議を終わります。

次に、企業会計の審査に入ります。

255ページをお開きください。

「議案第8号 令和6年度伊勢市病院事業会計予算」を御審査願います。

この議案の審査についても、一括で御審査願います。

☆議案第8号 令和6年度伊勢市病院事業会計予算

◎宮崎誠会長

御発言はありませんか。

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

それでは、病院事業会計につきまして、少しお聞かせをいただけたらと思います。255ページのほうに、業務の予定量ということで記載をしていただいております。入院患者数については8万9,790人、外来患者数については12万6,360人、また健診については1万4,153人と、令和5年の補正の数字はまた別でありますけれども、入院患者数は少し増えておりますけれども、外来は少し減っている、また、健診者数は少し減っているという予定となっております。また、その中で病院の経営のほうを見せていただきますと、キャッシュフロー計算書を見せていただきますと5億9,800万円の赤字と、昨年が4億円の赤字でしたので約2億円赤字が増える、またそれに伴って当年度未処理欠損金のほうも19億4,000万円だった令和5年度の数字から25億4,000万円に増えるということで、大変厳しい予算を見積もっていただいているのかというふうに思います。実際、職員給与がどんどん上がっていきましますし、材料費も上がる、また光熱水費も上がる、いわゆる医業費用はもうどんどん上がっていく一方かなと思います。大変厳しいこの予算について、大きな要因等あれば少しお聞かせをいただけたらと思います。

◎宮崎誠会長

経営企画課副参事。

●西井経営企画課副参事

令和6年度当初予算の純損失5億9,827万8,000円の主な要因でございますけれども、現病院の減価償却費が多額であることと、あと給与費、材料費などの費用では給与改定、また物価高騰等に関連する経費を見込んだことと考えております。また、病床利用率の向上と、医療の質の向上によって診療単価を上げていくことも必要と考えておりますので、今後につきましても引き続き収支の改善を図り、病院経営の健全化に取り組んでまいります。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。市立伊勢総合病院においては、建設のときのお金の減価償却のことが大変大きな数字があるということで、大変そこら辺は厳しいところはあるかと思っておりますけれども、ぜひ頑張ってもらいたいというふうには思っております。その中で、令和6年度については診療報酬の改定が行われる年ということで、いろいろ調べておりますと0.88%の増になるのではというふうに伺っております。それに対して医業収益がどれくらい増えるのか、見積りがあれば教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長

医療事務課副参事。

●細谷医療事務課副参事

令和6年度診療報酬改定につきましては、全体としてはマイナスの0.12%となっております。ただ、本体につきましては、医療従事者等の賃上げ措置などを含みまして、プラス0.88%となっております。改定の詳細につきましては、本日3月5日に厚生労働省から示される予定となっておりますけれども、現時点の情報として初診料、再診料、入院基本料等の引上げで約3,800万円の増加を見込んでおります。また、救急患者数が昨今増加しておりますけれども、その増加に伴いまして、DPCの医療機関別件数が上昇しております。その関係で約4,350万円の増加を見込んでおります。以上です。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。ありがとうございます。本日、示されるということで、また先ほど見積り等を聞かせていただきましたけれども、またなかなかそれ以上の診療報酬改定までには至っていないので、ぜひ皆さんで努力をしていただけたらというふうに思います。

また、この令和6年4月からということになります。前回の委員会でも聞かせていただいておりますけれども、医師の働き方改革が始まってくるということで、その辺について具体的に考えてきたことがあれば教えてください。

◎宮崎誠会長

経営企画課長。

●奥田経営企画課長

委員仰せのように、本年4月から医師の働き方改革が始まります。それに関連しまして、令和6年度の診療報酬改定の一つに、医師の労働時間につきましては、タイムカードなどを活用した客観的な記録により把握するということが求められております。今後の取組としましては、他の医療機関の動向であるとかシステムの導入の状況などを確認し情報把握を行い、当院に最適な労務管理の方法を研究してまいりたいと、そのように考えております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

具体的には、時間外とかそういった管理にもそういったものがしっかりと把握されていくという格好になろうかと思っておりますけれども、適切に対応のほうをお願いしていきたいと

思います。また、その医師の働き方ということでもありますけれども、この令和5年度におきましては救急センターが始まったり、また途中からでありますけれども、火曜日の夜の救急輪番が増えたということで、大変医師、看護師負担も増えているのではないかと思います。その辺の医師の看護師確保状況について、その辺教えていただけますでしょうか。

◎宮崎誠会長

経営企画課長。

●奥田経営企画課長

令和5年度から1日増えました救急輪番日の対応でございますけれども、医師につきましては、常勤医師に加えまして救急対応に必要な非常勤の医師の派遣もいただきながら、週2回の輪番日の運用をしております。今回、医師の働き方改革により時間外労働の上限規制が設けられることになりまして、当院に限らず、これまで以上に医師の確保は必要となります。引き続き派遣元の大学とよい関係を築き、医師の派遣のほうを依頼していきたいというふうに思っております。また、看護師につきましては、奨学金制度の活用もありまして、4月採用の新卒者を10名予定しております。今後も情報発信を行いながら、積極的に行って、看護師の採用に努めていきたいと、このように考えております。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

医師、看護師の皆さんおっていただいている病院ですので、ぜひ働き方改革、働きやすい改革のほうに努めていただいて、ぜひいろんな医療提供をしていただけたらというふうに思います。

あと、最後にマイナンバーカード、先ほど国民健康保険のところでも聞かせてもらったんですけれども、この市立伊勢総合病院のほうでは、マイナンバーカードの保険証としての利用というのはどれぐらいありますでしょうか。

◎宮崎誠会長

医療事務課長。

●南平医療事務課長

伊勢病院におけますマイナンバーカードの健康保険証としての利用率でございますけれども、令和5年12月で約4%となっております。なお、国が公表しております令和5年12月の全国平均利用率におきましては4.29%でございますので、おおむね全国平均と同じような利用率となっております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。4%程度ということで、これから増えてくるんだろうとは思いますが、マイナンバーカードを保険証で使うということについては、いろいろと一般質問等でも、災害時のことであったり、いろんな情報がそこに含まれているということで、病院にとってもメリットがあるのではないかというふうに思います。それぜひ患者さんにその辺使っていただくように、これからも働きかけをしていくべきかなと思いますけれども、その辺はいかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

医療事務課長。

●南平医療事務課長

マイナンバーカードを健康保険証で使うことをございますけれども、紙の健康保険証と比べまして、マイナンバーカードを保険証として利用していただきますと、患者様の同意は必要になるんですけれども、薬剤情報であったり、特定健診であったりの情報を取得することができて、それを電子カルテの画面に表示することができます。そのため、当院の治療におけます特定健診の情報であったり、他の病院での投薬の情報であったりを見ながら、より多くの情報を見ながら診療に基づいたり、あと他の病院で出たような薬の重複を防いだり、適切なお薬を出したりという、患者様の診療に生かすことはできます。そのような紙の保険証にはないようなメリットを患者様にお伝えをしまして、伊勢病院としましても、マイナンバーカードの健康保険証としての利用を促進していくように努めていきたいと考えております。以上でございます。

◎宮崎誠会長

吉岡委員。

○吉岡勝裕委員

分かりました。マイナンバーカードについては、そういった形でぜひ進めていただけたらと思います。

今回、病院についてお尋ねをさせていただきましたが、大変厳しい病院の経営になるのかなと思います。先ほど医師、看護師、働き方改革ということもありましたけれども、事務部門も含めて病院全員で質の高い医療の提供と健全経営を目指して頑張っていたらと思います。ありがとうございました。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありますか。

吉井委員。

○吉井詩子委員

私もちょっとお尋ねしたいと思います。看護師の方、先ほどの御答弁で新卒者の採用もあるというふうにお聞きいたしました。今現時点で看護師さんも辞めていかれる方もあるということで、減っているということもあるということが分かりました。やはり看護師さんの負担が多いということもあるのではないかなと考えます。コロナ禍を乗り越えて、本当によくやっていただいたと思うんですが、専門的な看護師さんとしてのお仕事以外にも、いろいろな介助をしたりとかそういうこともあって、なかなか大変なこともあるのかなとも思います。

そのような看護補助の方に食事とか介助などしていただくということがこれから重要になってくるかと思いますが、その看護補助者さんを雇うということで、少しでも看護師さんの負担が軽くなるのではないかと思います。看護補助者の確保が難しいということも聞いたことがあります。それは患者さんへの介助の内容が介護と重なる部分もあって、介護施設の中で賃上げ処遇加算とかやっておるところがあったら、そっちのほうへ流れていくというようなことも聞いておりますが、現在の現状はいかがでしょうか。

◎宮崎誠会長

経営企画課長。

●奥田経営企画課長

看護補助者の雇用についてでございますけれども、看護師の負担軽減を目的としまして、これまでも看護師を補佐する看護補助者、それとか介護福祉士の募集を行っております。しかしながら、応募状況は厳しく、特に夜間の時間帯における人材確保というのは困難であることから、令和4年7月から人材派遣により夜間看護補助者の確保を図り、負担軽減に努めております。また、6月の診療報酬改定においても、賃上げの対象の職種として看護補助者も含まれておりますので、今後は診療報酬改定に沿って、賃上げも含めて人材確保に努めていきたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

ぜひよろしくお願いたします。それと、看護師さんについてなんですが、今の認定看護師さんの状況はどうでしょうか。この認定看護師さんになるという資格など取りやすい環境があるのかどうか教えていただきたいと思います。

◎宮崎誠会長

経営企画課長。

●奥田経営企画課長

認定看護師といいますと、専門性が進む医療現場におきまして、高水準の看護が実践で

きるということで、日本看護協会が認定した看護師のこととなりますけれども、当院におきましては、現在3名の認定看護師が存在しております。高い専門知識を生かして活躍をいただいております。また、来年は1名の看護師が認定される予定となっております。今後も認定看護師に限らず、医療の質を高めるために専門職の必要な資格獲得につきましては、病院としてもサポートしてまいりたいというふうに思います。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

大変意欲的にやっていこうという方に対しましてサポートしていただくということでお聞きしたんですが、ちょっと具体的にどのようにサポートされますでしょうか。

◎宮崎誠会長
経営企画課長。

●奥田経営企画課長

資格におきましては、やっぱりいろいろな旅費であるとか研修の研修費であるとか、そういうことが病院として負担していきたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

ありがとうございます。それで、市立伊勢総合病院には保育所があると思うんですが、今のこの保育所の状況はどうでしょうか。

◎宮崎誠会長
経営企画課長。

●奥田経営企画課長

現在、子育て世代の若い職員が多いということになっておりまして、院内保育所につきましては、生後6か月から小学校就学前までの児童を対象に現在41名の方が登録されております。当院は、県から女性が働きやすい医療機関の認証も受けておりますので、今後は利用者のアンケートを実施しまして、院内保育所の充実と利用しやすい保育所の運営を目指していきたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長
吉井委員。

○吉井詩子委員

ありがとうございます。この院内保育所、充実していただきたいと思います。

それでは、病床の薬剤師の活躍の場が広がってきているということを何か聞いたことがあるんですが、2022年の診療報酬の改定では、病棟薬剤師業務の評価というものもされています。しかし、今ドラッグストアなどが増えてきまして、初任給に差があるので、全国的にも薬剤師の確保が困難だというふうにも聞いたんですが、病院のホームページとか見ますと募集もしていらっしゃるようなんですが、どういう状況でしょうか。

◎宮崎誠会長

経営企画課長。

●奥田経営企画課長

近年、医療の専門職につきましても、全国的に確保が難しい状況ということになっております。当院におきましても、特に薬剤師につきましても、これまで1次募集を継続して行っておりますけれども、計画に満たない状況のほうが続いております。今後も引き続き実習生の受入れと学校訪問を行い、薬剤師の採用につなげていきたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長

吉井委員。

○吉井詩子委員

分かりました。大変厳しい状況であるとは思いますが、やっぱり働きがいのある職場としていろいろ改善していただいて、この看護師さんや、また薬剤師さんもたくさん来ていただけるようにお願いします。2024年の診療報酬改定の基本方針の重要課題の一つといたしまして、人材確保、働き方改革の推進が挙げられています。さらなる環境の整備に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

この病院のところで、少し簡単に2つぐらいお聞かせをいただければと思います。まず1つ目が、この病院の防災であるとか緊急時のことについてお尋ねをさせていただければと思います。先日、2月29日に総合防災訓練、避難訓練が行われたと思います。地域住民の方を含めて自衛隊さんの御協力とかもいただきながら、あと伊勢地区の医師会さんとかも協力をいただいて200人ぐらいが参加したというような話で聞いておるんですけれども、他方で大規模地震を想定しての訓練ということで聞いてはいるんですけれども、この間の能登の地震の記事なんかを見ていると、近隣から傷病者といっても、ちょっと午前中の

やり取りの中では病気っぽい、いわゆる感染症であるとか病気に近いような形の御答弁だったかなと思うんですけれども、例えば骨が折れたであるとか、けがに近いような傷病者がたくさん運ばれて、病院の機能そのものかなり低下をしたというような、逼迫したというような記事を幾つか見たんですけれども、そのあたり訓練の中でどんなふうに考えられたかとか、今病院でその能登の地震を受けてどんなふうに防災体制を構築しているかを少しお聞かせください。

◎宮崎誠会長
経営企画課長。

●奥田経営企画課長

2月に実施しました防災訓練におきましてですけれども、実際の災害時につきましては、医師の中にも市外の在住者ということも含まれておりますので、災害発生直後にすぐに参集するというのはなかなか難しいことと想定されております。

今回初めて医師会の先生方も参加をしていただきまして、訓練を行っておるんですけれども、災害時には市内在住者が多い医師会であるとか関係機関とも連携を行いながら、災害拠点病院としての役割を担っていきたいというふうに考えております。

◎宮崎誠会長
野崎委員。

○野崎隆太委員

少し午前中のところの答弁を覆すわけにはいかないと思うので、なかなか難しい話になるかもしれないんですけれども、例えば大きな地震が起きたときに、そういうふうと同じ今回の例えば珠洲であるとかあっちのほうみたいにたくさん傷病者が運ばれてきたときには、当然駐車場で診療するとかそういったことも伊勢病院ではある程度は想定をされて今回訓練をされたんでしょうか。

◎宮崎誠会長
経営企画課長。

●奥田経営企画課長

多数の傷病者の受入れということで、緑、軽症者は駐車場で、それと黄色、赤という重傷者につきましては院内でというトリアージということも考えながら防災訓練のほうは実施しております。以上です。

◎宮崎誠会長
野崎委員。

○野崎隆太委員

これ以上言うと項目の違いとか審査の終わったところになるのであれですけども、ただ午前中のお話の中で少し不安だったので、日赤にじゃあ、そういうふうと同じようにけがの患者が運ばれてこないかという、恐らく伊勢市民病院の訓練はそういうふうには想定をされずに、地域住民が来るという前提で恐らく訓練をされていたかなと思うので、そのあたりもぜひ危機管理のほうとも、もうちょっとひよっとしたら違う状況があるんじゃないかという想定もお伝えをいただければと思います。

その上で、先ほど伊勢市民病院に来られとる医師の皆さんがどこに住んでいるかというような話があったんですけども、これも同じように道路事情が少し違うので、必ずしも同じことが起こるとは思いませんけれども、同じ程度の災害が起きたときに出勤が困難になるというような、出勤というか、登庁というか、登院というかが困難になるというような、お医者さんが来られないというような想定を恐らく伊勢病院の中でもされているかなと思うんですけども、こういったものは例えばリスト化されていて、恐らくこのお医者さんが来られる、来られないという言い方はちょっと雑ですけども、そのあたりというのは、ある程度整理をされているものではないでしょうか。

◎宮崎誠会長

経営企画課長。

●奥田経営企画課長

災害時の参集の方法ということになるんですけども、BCP、それによりまして発災後3日間につきましては、病院から20キロ圏内の居住者につきましては徒歩で参集を行っていただくことになっております。その20キロ圏内が6割ということになりますので、約220名が参集を予定しております。以上です。

◎宮崎誠会長

野崎委員。

○野崎隆太委員

分かりました。ここで簡単に20キロは大変だなみたいな話をするつもりもないので、少しそうなのかということで、ちょっとここは終わっておこうかと思っておりますけれども、20キロ圏内の方が徒歩で来るということですね、分かりました。災害に関してはその程度というとあれですけども、いろんな形が想定されて、恐らくこの能登のことでもたくさんの報告を受けていると思いますので、そのBCPの中身もぜひとも来年度、令和6年度の中で順番に更新をしていただければなというふうに思います。

その上で、もう一点だけお聞かせをいただければと思います。先ほど単年度で見ると、まだこの病院結構な赤字があったりだとか、病院としては満足がいくような結果ではないのかもしれないけれども、通期であるとか、病院が建てる前の計画とか、建てた直後に修正した計画とかそのあたりからは随分と好転をしているというようなふうに僕は理解をしています、それは病院の皆さんの努力によってだと思っておりますけれども。厳しいこと

を言ってきた側の1人としては、やっぱり幾ら公務員さんとはいえども、適切によかったときはよかったという評価をすることが僕は重要じゃないかなと思うんですけれども、今後新しいプランがつけられるというような計画もあると思うんですけれども、その中で、この開院してから5年ぐらいの総括で、例えばこういうふうにここがよくなったというような話をきちっと病院側の努力を、できれば市長部局というか行政側でしてあげること僕は一つかなと思うんですけれども、そのあたりはいかがでしょうか。

◎宮崎誠会長
市長。

●鈴木市長

失礼いたします。伊勢病院におきましては、本当に大変な時代をくぐり抜けながら、医療従事者の皆さん方が大変な努力をいただいて現状に至っております。特に、各先生方も本当に献身的に市民の方、また患者さんのためにどのような医療を構築していくべきか、また10年後、20年後の体制についてどのようなことを考えていくべきかということ、日々研さんをいただいているような状況でもございまして、それぞれの診療科でも、全てはまだ賄い切れませんが、不足した診療科も随分充足をしてきましたし、これまでなかなかとり着かなかった研修医の方々の定着率もだんだんと伸びてきております。最近では、当然整形の関係でも、三重県下でも手術件数が非常に高い位置にもございますし、総合診療の関係でも、若い先生方が勉強にお越しいただくような環境も出来上がってまいりました。

ただ、一方では、先ほど働き方改革がこれから来る中で人材をどうやって確保して定着をしていくかということが大きなことが1つと、あとはこれから病院がオープンして10年近くたってまいりますと、医療機器であったりシステムの更新の時期も近づいてまいりますので、そういった病院の市民の皆さん、患者さんの皆さんに安心していただける医療環境の充実と財政面をいかに確保していくか、こういったところに我々も努力をしていきたいと思っています。以上でございます。

◎宮崎誠会長
他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

他に御発言もないようでありますので、議案第8号の審査を終わります。

次に、企業会計中、当分科会関係分の自由討議を行いたいと思いますが、御発言はありませんか。

【企業会計の自由討議】 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようでありますので、自由討議を終わります。

次に、令和6年度予算全体中、当分科会関係分の自由討議を行いたいと思いますが、御発言はありませんか。

【令和6年度予算全体の自由討議】 発言なし

◎宮崎誠会長

御発言もないようですので、自由討議を終わります。

分科会の審査が終わりました。

ここで、各議案について皆さんの賛否を確認したいと思います。

反対する議案がありましたら教えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

副会長。

○楠木宏彦副会長

2号の一般会計、3号の国保特会、4号の後期高齢者医療特会、5号の介護保険特会について反対をいたします。

反対の理由ですか。

◎宮崎誠会長

はい、理由もお願いします。

○楠木宏彦副会長

一般会計につきましては、もちろん全体としては、この教民の分科会以外のところでもいろいろと問題点はあるんだろうと思いますけれども、この教民の中で審査させていただいた中では、やはり昨年も申し上げましたけれども、ゼロカーボンの問題なんですけれども、これは市としてもそういう宣言もしていただいているんだけれども、それにしてもあまりにもテンポも遅いし、それから内容的にも非常に貧弱だと。まず本気が見られないというようなところもありまして、この辺に問題があるなというふうに考えます。

それから、あと国保、後期高齢者、介護につきましては、一番単純な話としましては、どれも保険料が上がるというふうな話なんですよね。もちろん国保などについては、随分努力もしていただいているんですけれども、やはりもう少し何か工夫をしてもらいたいなというふうに思いますし、それから介護につきましても、まだ国からのいろんな仕組みがあって、それでやっているわけだけれども、そこでやはりこの伊勢市に合わせたやり方、もっとしっかりと考えてもらいたいなと思っております。以上です。

◎宮崎誠会長

他に御発言はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

以上で、本分科会に振り分けられました案件の審査は終わりました。委員の皆様におかれましては、円滑な審査に御協力いただきありがとうございました。

お諮りいたします。

会長報告文の作成については、正副会長に御一任願いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎宮崎誠会長

御異議なしと認めます。そのように決定いたしました。

それでは、これをもって予算特別委員会教育民生分科会を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 午後 3 時 04 分

上記署名する。

令和 6 年 3 月 5 日

会 長

委 員

委 員